教員サポート1 メディアセンター・サービス活用術

島田貴史 Takashi Shimada 司会 種村和史 Kazufumi Tanemura



慶應義塾大学教養研究センター Reio Research Center for the Liberal Arts

慶應義塾大学教養研究センター・日吉メディアセンター 共 催

教員サポート1

メディアリテラシーワークショップ

メディアセンター・サービス活用術

メディアリテラシーワークショップ

第1回・第2回・第3回

メディアセンター・サービス活用術

一少人数セミナー授業での実践ワークショップー

学生向けの情報リテラシーセミナーを行っている図書館員が、学生が資料収集・分析でつまずく点とそれに 対する指導法を紹介しながら、メディアセンターが提供する検索ツール・自習ツールなどの各種サービスを取 り入れたレポート作成の指導法を提案します。

日時:2007年6月20日(水)18:15~

6月25日(月)18:15~

11月27日(火)18:20~

会場: 来往舎 中会議室

第4回

メディアセンター・サービス活用術

一ステップアップ編 文献管理ソフト RefWorks 利用法

メディアセンターが推奨する文献管理ソフト RefWorks を使って、収集した文献情報を効率的に整理し、研究・ 論文執筆に役立てる方法を学びます。また、作成した文献リストを用いて学生の指導や授業に役立てる方法も あわせて学びます。

日時:2007年12月5日(火)18:20~20:00

会場:来往舎 小会議室

講師(第1~4回)

島田 貴史

慶應義塾大学 日吉キャンパスメディアセンター

講師(第4回)

上木 玲奈

株式会社 RefWorks

司会

種村 和史

慶應義塾大学商学部教授、慶應義塾大学教養研究センターコーディネーター

はじめに

現在、大学教育を取り巻く環境は日々に変化をしています。そのような変化の中で、我々は良い授業をするために、試行錯誤しながらも努力していますが、いかんせん、個人営業の性格が強い大学教員は、新たな状況に対して後手に回りがちな傾向があります。慶應義塾大学では、教育研究環境の変化に対応するための経験と知恵がいろいろなところに集積されており、様々な人や組織が有用なサービスを提供していますが、せっかくすばらしい財産があってもその情報が充分に行き渡っていないために、個々の教員によって充分に活用されていないのが現状ではないでしょうか。

教養研究センターでは、新しい情況に置かれた教員をサポートし、よりよい授業を実現する方法を考える情報交換の場として、教員サポートワークショップを立ち上げました。その第一回として、教養研究センター・メディアセンターの共催によるメディアリテラシーワークショップ「メディアセンター・サービス活用術―少人数セミナー授業での実践ワークショップ」を開催する運びとなりました。

ここ数年、カリキュラム改革の進展に従って、少人数の履修者にリテラシー教育を行う授業を日吉の教員が担当するケースが増えています。このような授業は、教員の工夫次第で学生の確かな手応えを引き出すことができる反面、必ずしも自分の専門でないテーマや普段手慣れていない研究手法を指導しなければならず、困惑してしまうことも多々あります。「指導の仕方を工夫したい」「学生のつまずきにもっと効果的にアドバイスできないだろうか」と常々感じている教員も多いのではないでしょうか。

メディアセンターでは学生に対してレファレンスサービスを行っていますが、最近、資料の探し方、レポートの書き方について相談をしにレファレンスカウンターに足を運ぶ学生が増えているそうです。図書館員の方々はそのような学生の相談に、情報収集・情報整理のプロとして答えているわけですが、その中には、我々教員が授業の場で学生を指導するのにも役立つ知恵もたくさんあるのではないかと思います。また、学生がレポート作成において、どのような困難を感じているのか、どのよう

大学教養研究センター コーディネーター 種村和史



な指導が学生にとって有効なのかといったことについて も、我々教員の知らない、あるいは気がつかない情報を 図書館員の方々はお持ちのことと思います。

そこで、本ワークショップでは、図書館員の経験とノウハウを存分に使って、資料収集からレポート作成までの流れを指導したらどうなるかをご披露していただこうと思います。よりよい問題設定の立て方、資料に確実に辿りつくための検索キーワードの見つけ方・様々な検索ツールの使い方・収集した資料の整理の仕方など、情報のプロならではの視点からの指導法を紹介していただきます。あわせて、KITIEやPATHといった自習ツールをはじめとしたメディアセンターが提供する各種サービスを効果的に授業に取り入れる方法も紹介していただきます。少人数セミナー授業のさらなるレベルアップに役立つヒントが見つかることと思います。

メディアセンターサービス活用術

---少人数セミナー授業での実践ワークショップ----

島田貴史

(慶應義塾大学 日吉キャンパスメディアセンター)

■はじめに

ただいまご紹介いただきました日吉メディアセンターの島田と申します。通常はメディアセンターの1階にあるレファレンスカウンターで勤務しております。サービスカウンターでの参考調査業務の他にも、学生に対し、図書館の立場で行う「情報の取り扱い方」に関する講義・セミナーの講師を担当させていただいております。本日は、教員の皆様の前でお話をしろ、ということで多少緊張しております。本日は大学図書館の実務担当者の目に映るもの、感じていることという視点でお話をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

内容紹介

本日、私の方で用意している話題は主に3点です。

1つ目は、導入として、図書館のカウンター越しに見る「学生さんの躓き」です。カウンターで受ける質問内容や2007年度春学期に実施したアンケートから感じることについて話します。

2点目は、日吉メディアセンターの主要事業であります「情報リテラシープログラム(Information Literacy Program。以下、ILP)」の活動内容について触れます。

3点目は、種村先生からご依頼のありました「図書館 員の検索術」について、最近の技術動向も交えながら話 します。ここでは、お手元にありますパソコンを使った 検索実習も行いたいと考えております。最後に、若干個 人的なメッセージを述べさせていただきます。

■図書館では今……

アンケートから分かるもの

<入学後のメディア利用について>

頻度 週1~2(53%)、週3以上(22%)

目的 閲覧席、PC、資料の順

時間帯 授業の空き時間、昼休み、5 限後

曜日 火・水・月・木・金・土

 OPAC
 60%が使用も40%弱が未使用

まず始めは「図書館で今」です。現在の日吉メディア センターで起きている現象について報告いたします。

ご存知のように、日吉キャンパスは高校を卒業したばかりの学生を受け入れるキャンパスです。ここに春学期に実施したアンケートがあります。「高校までの図書館体験」と「入学後のメディアセンター利用状況」について聞いています。厳密さ、という意味では問題も少なくありませんが、全体像は掴めていると考えています。対象は法学部・経済学部・商学部の1年生が中心です。回答総数は1104件でした。

まず、利用頻度ですが、週 $1 \sim 2$ 回 (53%)、週3回 (22%)、月 $1 \sim 2$ 回 (22%) となっており、定期的に利用されているようです。使ったことがないは4%でした。次に利用目的ですが、授業の予習・復習、試験の準備 (29%)、パソコンの利用 (23%)、資料の利用 (18%)、閲覧席・グループ学習室の利用 (10%) となっています。居心地が良い (8%)、なんとなく (5%)、友達との

待ち合わせ (4%) といった回答もありますので、メディアセンターは様々な使われ方をしていることが分かります。どうも、彼らにとっては「図書館」ではなさそうです。少しショックを受けたのは、蔵書目録 (OPAC) の使用状況です。必ず (5%) と何度か (56%) を足せば 6割ですが、使ったことがない (34%) と存在を知らない (5%) でも 4割になります。

<これまで(高校まで)の図書館体験>

頻度 時々+良く (73%)、未使用 (27%)

目的 資料 (65%)、閲覧席 (34%)

ネットから図書館サービス

蔵書目録の検索(45%)、利用案内(29%) 使ったことがない、知らない(40%)

次に「高校までの図書館体験」です。入学後とは頻度と目的の点で異なっています。4人に1人があまり図書館を利用していなかったようです。また、利用目的では資料の利用(65%)がトップです。高校段階でのネットからの図書館サービスについても、蔵書目録の検索(45%)と利用案内(29%)は経験があるようですが、使ったことがない、存在を知らないで4割となっています。このアンケートから分かるのは、メディアセンターは高校までの図書館・図書室とは違う使われ方をしており、OPACを含めた従来の図書館サービスの認知度は低いということです。図書館の使い方は入学後に学ぶ必要がありそうです。まずは「認知」のレベルから始める必要がありそうです。

カウンター越しに見る学生さん

次に「カウンター越しに見る学生さん」です。字句に 手は入れていますが、これらは実際にカウンターで受け た質問です。まず前提ですが、すべての学生さんが質問 に来る訳ではありません。慶應の学生の多くは優秀です。 ですから、カウンターに来る学生さんには何らかの理由 があるはずです。恐らく、勇気をふりしぼって、係員に 声をかけていると思います。その質問内容は、多種多様 です。曖昧であったり、えっ、というような質問も含ま れます。

<寄せられた質問(例)>

- ・アメリカの最先端ビジネスに何があるか
- ・野村紗知代さんの脱税報道について、各 TV 局が行った放送時間(○分)の違い
- ・Henry V世について書かれた英語の文献を探したい。 ヘンリーと入力してもヒットしない
- ・就職採用時に何を重視するかについて、日米での比較。 学歴(容姿)は重視されるか。
- ・ゆとり教育を肯定する文献

Henry V世に関する英語の文献をカタカナでヘンリー と入力しても、そりゃヒットしないだろう、と突っ込み たいところです。このような質問を受けていると、

- 1) 探したい内容が自分の中で明確になっていない、
- 2) テーマ選びが壮大すぎる、または身近すぎる、
- 3) サーチエンジンの検索には慣れているがそれ以外 の検索方法を知らない、
- 4) 文献よりもデータが欲しい、
- 5) 必要な情報だけ欲しい、

といった特徴があるように思えます。1、2年生なので仕方がないかもしれませんが、自分で問いを立て、調べ、分かる(分かった)という経験が不足していることが原因だと思われます。これは、まぁ、私も他人のことはあまり言えませんが。

■ ILP (Information Literacy Program)

情報リテラシーとは?

- 1. 自分の情報要求を明確に出来る
- 2. 情報源に合わせた検索手順を知っている
- 3. 集めた情報を正しく評価できる
- 4. 情報を倫理的・法的に正しく使える ※ ACRLの5原則を日吉風にアレンジ

情報を

収集 --- 評価 -- 活用 探索する --- 理解する --- プレゼン ス手する --- プレゼン 「情報リテラシー」とは、「情報の読み書きソロバン能力」と言われていますが、では、具体的に何?と問われると難しい問題です。日吉メディアセンターでは、ACRL(American College and Research Libraries)が定めた5原則からなる情報リテラシーの能力定義を4原則にまとめ直しました。細目は沢山ありますが、文献や資料を探すという行為は「検索」という独立したものがあるのではなく、自分の情報要求が明確でなければそもそも何を探して良いのか分かりませんし、図書とネットは検索法が異なっていますし、集めた情報はキチンと判断して使う必要があり、他者から得た情報は法的・倫理的に正しい方法で使う必要がある、ということを言っています。

ACRL 基準は、今触れたようなことができるためには、アレができる、コレができる、という「具体的な能力内容」を定義しています。当然、知的生産において、情報面で求められるすべての能力を図書館で教えることは不可能です。ただし、単なる文献の探し方案内ではなく、一連の情報処理プロセスを意識している、というのが私どもの「ILP(Information Literacy Program)」すなわち「情報リテラシープログラム」の特徴です。

日吉メディアセンター ILP 活動の経緯

96 年度 「日吉メディアセンター中・長期計画」 97 年度 「理工学概論」

※ 90 分 1 コマで完結 (講義形式)

※ 法・商・経でも実施(文・医は未実施)

02~04年度のカリキュラム変更

※ 能力基準 (海外) を導入、自習用教材の開発

05 年度 「KITIE」の公開

06 年度 「PATH」の公開

私どものILPについて宣伝させていただきます。日吉メディアセンターのILPは1996年度に定めた「日吉メディアセンター中・長期計画」に始まります。翌97年度に「理工学概論」の授業内で実施したのが最初となります。内容は1回完結の講義形式で、初年度は16回実施しています。その後、法学部・政治(98年度)、商学部(98年度)、経済学部(00年度)に拡大していきましたが、全学部での実施には至っていません。当初は全学部への

拡大が基本路線だったのですが、この路線が変わったのが 02 ~ 04 年度に行われたカリキュラム変更です。

活動の内容(2つの柱)

・講義・セミナー

講義 · · · · 必修系授業の1コマ(90分)で実施セミナー · · · · オンデマンド(時間・内容)で実施少人数セミナー、語学が中心

・Web チュートリアル教材(PATH、KITIE)

講義は座学 = 補助教材の必要性

大教室・講義形式は学習効果が低い

⇒ 動画好き、遊びの要素、いつでもどこでも

ここでの変更点は、先ほど紹介した ACRL という外部 基準(客観的な指標)の導入と自習用教材の開発です。 外部基準を導入したことで、基準に沿った自習教材の開 発が可能となりました。以前から1回勝負型の座学によ る学習効果には疑問がありましたが、自習教材の開発に より講義時間内で説明できなかった部分のフォローがで きるようになりました。また、自習教材はWeb上に公 開しております。すべての先生方にお使いいただけます。 貴重な義塾の予算で製作しました。えー、統計を見ます と、アクセスに占める学外の割合が非常に高くなってお ります。なにとぞ、ご活用願います。

PATH (http://project.lib.keio.ac.jp/PATH/)

・全体は5つの Module で構成されている

M1 大学における学び

M2 各メディアセンターの紹介

M3 検索テクニック

M4 KOSMOS(蔵書目録)

M5 記事索引データベース

オリエンテーションとしては M1 と M3 が最適

入門編としては M4 と M5 が向いている

もう少し自習用教材について補足いたします。まずは PATH (パス) です。PATH は初心者用の教材です。全体 は5つの Module で構成されており「動画でわかる情報 リテラシー」といった位置づけです。今日お越しの先生 方にも多大なるご協力をいただきました。オススメは冒頭の Module 1 と 3 です。

Module 1 では数人の先生方にご出演いただき、新入生 にとって新しい知の世界である大学について熱く語って いただいております。高校までとは異なる大学での学習 スタイルについて、問題を解くのではなく、問題を発見し、 解決することの面白さ、そして、それらの活動には正し く情報を扱うことが重要である、という内容になってい ます。日吉メディアセンターの所長である伊藤行雄先生 が書架で分身の術を披露する箇所が一番、学生に評判が 良いです。掴みは OK と言ったところでしょうか。横山 千晶先生も熱っぽく語っておられますし、下村裕先生の 場面では「この先生の研究が新聞に載ったよ。タマゴっ て立つらしいよ」といったコメントを付けると、学生た ちも「へえー」という顔をします。最後の金田一真澄先 生は「NHK テレビ ロシア語講座の先生ですよ」と説明し ます。すると、そんな有名人が私に話しかけてくれている、 という気分になっているようです。苗字が苗字なので「あ の金田一?」という顔をしている学生もいます。

授業での PATH の使用例

M1 (3'53) の上演

高校までと大学以降の学習スタイルの違い 問題の発見、解決のために情報が必要

M3 (4'34) の上演

検索は「ことば」で行う ことばのセンスを養うためには?

AND・OR 検索、ことばの階層構造

この Module 1 と並んで導入教育向けなのが Module 3 です。Module 3 では、基本となるキーワードの選び方から検索テクニックまでを分かりやすく紹介しています。こちらでは、メディアのスタッフが 2 次元モードでチョコマカと熱演しております。是非、ご覧ください。Module 1 の上演時間は 3 分 53 秒、Module 3 は 4 分 34 秒です。学生の大好きな動画です。私も講義中は彼らの前を動き回っているのですが、どうも絵には勝てないようです。インターネットブラウザと Adobe Flash Player という無料ソフトがあれば、いつでもどこでも、再生できます。



KITIE (http://project.lib.keio.ac.jp/kitie/)

- ・PATH の上位版(自習用教材)
- ・6 つの章で構成されている

レポートを書く

情報の種類と特徴

情報を収集する

情報を評価する

情報を活用する

プレゼンテーションする

次は KITIE です。キティちゃんのキティです。先ほどの PATH の前年、2005 年度にサービスインしました。6つの章からなっているオンラインチュートリアルです。PATH で全体のイメージを掴んだ後に情報リテラシーに関する知識や技法を学ぶことができます。

KITIE の使い方

- ・プレテストを学生に課す(5~7分)
- │・間違えた箇所に該当する章の自習を指示
- ・特に重要と思われる箇所を指示

探し方

⇒情報を収集する

評価

⇒ 情報を評価する

活用・著作権 ⇒情報を活用する

オススメの使い方として、まずは「プレテスト」を学 生に受験させてください。設問は 20 題、学習者のその



時点での情報リテラシー習熟度を確認できるようになっています。20 問を解き終えると評価判定の画面が表示されます。学生はAとかBといった判定に関心を持つでしょうが、基本的にはAは出ないと思います。Aには全間正解が必要ですので。重要なのは成績ではなく、誤答した部分です。評価判定画面では、誤答箇所に「学習すべき単元」が明示される仕組みになっています。KITIEは分量の多いものですからプレテストを行い、自分が弱い部分を重点的に学習する、という使い方が良いと思います。なお、プレテストとファイナルテストには、結果を登録できる仕組みがあります。出欠票替わりに使いたい、という場合はご相談ください。

PATH、KITIE の今後の課題

- ・図書館員(職員)の言うことは聞かない? 学生には「先生の言葉」の方が重い(実感)
- ・研究・教育を専らとしない図書館員が作成
- ・「テーマの立て方|「情報のまとめ方|が弱い
- ・今後の維持・更新の問題 製作できるスタッフは限られる スタッフには人事異動という制度がある

用の促進です。中身は悪くない、むしろ素晴らしいと思っているのですが、学生へもっと普及するためには先生方のお力添えが必要です。メディアセンターの職員が宣伝するよりも、先生方からのご推薦という形の方が、悔しいのですが、学生への宣伝効果が高いと考えております。お墨付き効果でしょうか。よろしくお願いいたします。

2点目、3点目は質の問題です。図書館員は情報のスペシャリストですが、あるテーマの専門家でも、プロの研究者でもありません。特に「テーマの立て方」「情報の評価やまとめ方」といった部分のさらなる充実が必要だと感じています。この部分でも、PATHのModule1のように先生方と連携していきたい、と考えております。

最後は職員には人事異動という厄介な制度がある、という点です。完成してまだ2年も経っていませんが、PATH・KITIEを制作した力のあるスタッフ、市古みどりと上岡真紀子の両名、この二人は本当に力があるのですが、日吉にはもう在籍しておりません。これらは引継ぎ業務で済むような代物ではありません。人の面での工夫も大きな宿題となっています。

PATH、KITIE を含めた今後の課題です。1 点目は利

■ 図書館員流情報検索指導法

図書館員の検索術(Tips)

ここまで抽象的な内容が続いてしまい申し訳ありませんでした。ここからはハウツーに近い内容です。ずばり、図書館員の検索術です。

私たち図書館員は、情報をどのように探すか、情報と どのように向き合うかを学生に教える技術というのを身 につけています。それを教えることが可能かどうかとい うのは疑問かも知れませんが、実際にやっております。

私たちのやり方のメリットは、とりあえずどんなテーマでも適応できるということです。文学でも社会現象でも、どんなテーマにも一応適応できる技術です。もうひとつは、他人に教えることができるということです。図書館員の間でお互いの知識や経験を教えあっていますので、伝承可能な手順が存在しています。

もちろん、デメリットも多く感じています。先生方のように、ある主題のプロからみると、間違いなく我々は余計な情報源を見ています。また、テーマに関する知識がないと探せない領域というのもあります。法学や特許などが典型的で、あとは国際機関、EUなど、EUの仕組みがわかっていないと、そもそも探せないというのがありますので、一部にやはり厳しい部分がありますが、こういう例外を除けば、だいたいどんなものにも適応できます。

学生が陥っている罠

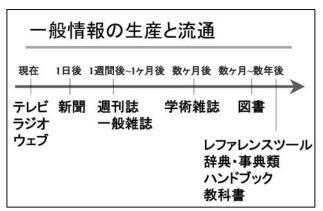
- ①少人数セミナーなどで「自由テーマ」の増加
- ②身近な話題、最近の出来事を好む傾向
- ③そこで、Web禁止となると、何も探せない・・・ なぜか?

本日は私たちのこのような Tips をご紹介していきます。「なぜ、日本人は韓国料理というと焼肉と考えるのか?」というテーマでレポートを書く、と決めてしまった留学生の指導にご苦労されている種村先生に Tips を差し上げられるかもしれません。また、こういった身近なテーマを選択する学生が陥りがちな罠について、情報の

観点から少しばかり触れたいと思います。

まず、学生が陥りやすい「罠」についてです。少人数セミナー、ディベート、グループワークといった新しい手法を採用している授業が増えているように感じます。また、課題でも「自由テーマ」というのを良く見かけます。一方、一部の先生方は「Web 禁止」という条件も出されているようです。この自由テーマと Web 禁止が重なったとき、一部の学生が「何も探せない…」という状態に陥っているのをよく見かけます。なぜでしょうか?

一般的な情報の生産と流通について



この図は、ある出来事が発生してからの時間の経過と、 その出来事が掲載されるメディアの関係を示しています。

Web ⇒ 新聞 ⇒ 雑誌 ⇒ 図書

ある出来事の情報が、雑誌や図書(Web を禁止することで学生が使用するだろうと考えられる情報源)に掲載されるまでには時間がかかります。この図で見ると、単純に言ってしまうと、ある出来事の情報が雑誌になるには、週刊誌レベルでも一週間以上はかかりますし、クオリティの高い学術雑誌となると一ヶ月前後かかります。さらに、それが図書になると、早くても三ヶ月かかるわけです。

ところが、一般的に学生は身近な話題を好む傾向があります。その時、Webは使えないとなったらいったいどうすればいいのかというのが、彼らの嵌っている罠だと思います。ですので、もしWeb禁止ということを授業でなさるならば、新しい出来事は文献なんかないぞということをはっきりと説明していただき、テーマを決める前にそのテーマで文献を探せるか、特に

図書や雑誌で探してみてごらんと指導していただく と今の罠は避けられるのではないかなと思います。

例えば、PASMOについて書こうと決めた学生がいたとします。PASMOは今から3か月前程度(2007年3月18日)にサービスインしたサービスです。図をご覧ください。今、PASMOに関する本ってあるでしょうか? Web禁止となった場合、彼/彼女はどうすれば良いのでしょうか? 雑誌論文や記事、新聞記事を探すという方法がありますが、1年生の時点で雑誌に気づく学生さんは少ないと思います。一般的な傾向として、学生はWebと図書には気がつきます。でも、新聞はまだしも、雑誌というメディアはほとんど思いつきません。

だからこの図を知っていれば、3か月前かぁ、新聞か雑誌を探せばよいな、という判断もできますし、そうだ、SUICAなら時間が経っているから本もあるかもしれない。SUICAを参考にPASMOと比較するか、という判断もできます。たった1枚の図ですが、時間の経過とメディアの関係を知っているのといないのとでは大きな違いがあります。

紙に書く

- ・キーワード選びでのおススメが「紙に書く」
- ・それも、探したい内容を文章にします 日本人にとって韓国料理はなぜ焼肉か?
- ・上の文章からキーワード、

テーマの背景を抜き出します

焼肉 (ホルモン、カルビ)、韓国 (朝鮮) 料理、 韓国人 (朝鮮人、在日)、イメージ、日本人

次は「キーワード」について考えてみましょう。先ほどの「焼肉と日本人」を例にとります。老若男女を問わず、ブラウザを開いて「焼肉 日本人」を入力。二語の間にスペースを入れて検索するのではないでしょうか? ここでは、PATH の Module 3 を参考に、キーワードの選び方と検索テクニックについてご紹介します。

まずは、紙と鉛筆をご用意ください。紙に思いつくままに探したい内容について書いてみます。意外と文章にできないことが多いと思います。テーマの背景や探したい内容が明確になっていないからです。

こういう時、役に立つのも Web です。先ほどの 2 語で検索してみます。きっと、何かヒットします。その中から面白そうなネタを仕入れる、という方法です。Web は背景や基本情報、アイディアといったものを見つけるのには向いている道具だと個人的には思います。問題はそれを「丸写しするな」ですよね。

文章が出来たとします。ここからが検索テクニックです。検索の要諦は「漏れなく、効率的に探す」です。ボキャブラリを豊富にしましょう。例えば「焼肉」。もちろん、焼肉で論文や本が書かれる場合もありますが、ホルモン、カルビといった料理名や肉の部位でも書かれるかもしれません。同じように「韓国人」も「朝鮮人」または「在日」と言い換えることができます。書き手が使う言葉を制限できませんので、こちら側で準備します。実際に検索する時には「OR」という概念でこれらの言葉を結びつけます。韓国人の例ですと「韓国人 OR 朝鮮人 OR 在日」となります。これで漏れがグンと減ると思います。こういった概念操作を画面上で行うには経験が必要です。ですから、紙と鉛筆をオススメしています。ローテクが役立ちます。

図書を探す

- ・学生さんは Web → 図書 までは探します
- ・学生さんの図書の使い方、探し方
 - ――新書が好き(入門書・教養書と認識)
 - ――辞書は敬遠(古臭い?というイメージ)
 - ----蔵書目録で One Word 検索
 - ――本当は中身で検索したい(Google の発想)
- ┃・蔵書目録の使い方は今イチ分かっていない

それでは、実施に文献を探すテクニックに入りましょう。まずは図書です。アンケートや館内の行動を見ても、学生は雑誌がすぽっと抜けているだけで、図書と Web は探そうとしています。ちなみに、学生の図書の探し方はというと、新書が大好き。200ページぐらいで何でもわかるというハンディなものが好きなんでしょうね。辞書は敬遠されます。古臭いとかいうイメージですね。

さて、彼らの問題は探し方が分かっていないことです。ここでの最初の「躓き」は「蔵書目録(OPAC)」で

す。学生は、蔵書目録でワンワード、単語一個で検索することが多いです。でも本音は中身で検索したい。本の中身で検索したい。これはやはり Google の影響です。インターネットがキーワードで中身から探せますので、器から検索するというのがどうも気持ち悪いみたいです。

というわけで、図書を探すときに一番大事な道具である、蔵書目録の使い方はあまりわかっていません。ここから整理する必要があります。

蔵書目録とは

蔵書目録とは

図書館の蔵書を調べるためのデータベース。検索語を入力することによって、所蔵資料の書誌情報と所蔵情報を調べることができる。

慶應義塾大学の蔵書目録

→ KOSMOS II OPAC

- ① 特定の資料が図書館にあるか、ないか?
- ② テーマから図書を探す

OPAC (Online Public Access Catalogue) とも呼ばれる 蔵書目録は図書館の蔵書を検索できるシステムです。以 前はカード目録でしたね。キーワードを入力すれば関連 する資料がヒットする便利な道具ではありますが、盲点 もあります。



まずは、蔵書目録への行きかたですが、日吉メディアセンターのトップページの一番左上の「蔵書検索(OPAC)」をクリックして開いてください。

蔵書目録を学生に教えるときに大事なのが、OPACはこつの機能を持っているということです。一つはもともとの機能です。ある特定の資料が図書館にあるかないかを探すための道具。これが一番大事な機能、基本機能です。でももう一つ、中身やテーマから本が探せるという部分もご紹介していただきたいと思います。

蔵書目録のポイント

① 書誌情報の読み方を教える

図書と雑誌の区別を知らない

※ 図書と雑誌で探し方が違うので重要

② 蔵書目録に入力するキーワードは何?

図書・・・○書名 ○著者名

雑誌 ・・・ ○ 雑誌名 (のみ)

X 論文の著者、論題、掲載巻号

まず、特定の資料を入手するときなのですが、学生は ここでも躓いています。レポートに参考文献をつけなさ い、と先生方はご指導されていると思いますが、「書誌 事項の読み方」はご指導いただけているでしょうか? 素人にとっては、あれは暗号です。

あるいは、「雑誌論文を読んでおくように」と言って、 雑誌の書誌事項だけ渡している先生方もいらっしゃると 思いますが、学生は、まず読んでいません。なぜかと いうと、彼らは雑誌が入手できないのです。彼らは図書 と雑誌が区別できません。OPAC は図書と雑誌で探し 方が違うので、雑誌が特に探せないという現象が起こり ます。来週までにこの資料を読んできなさい、と言われ ても、蔵書目録に何を入力してもヒットしない、図書館 にないじゃないか!こんな状況に学生さんは陥っていま す。したがって、このような課題を出すときは、まず書 誌事項の読み方を教えていただきたいと思います。それ が図書館スタッフの切なる願いです。

なぜ、こうなってしまうのでしょうか。 蔵書目録の作られ方と関係しています。 蔵書目録はカード目録から発生したものです。そのカード目録は物(ブツ)としての

資料を記録したものです。蔵書目録の基本は、ある特定 の資料(ブツとしての資料)が図書館にあるか? ない か?を探すための道具であり、ブツに書かれている内容 からの検索には不向きです。ここがネットの検索とは異 なっています。

雑誌を例に挙げます。1冊の雑誌には複数の論文・記事が掲載されていますが、1つ1つの論文・記事からそれが掲載されている雑誌を検索することが蔵書目録ではできないのです。つまり、蔵書目録を探す時は、

- 1)「図書」か「雑誌」かの判断をする、
- 2) 雑誌の場合、論題や著者名ではなく「掲載資料 (雑誌) 名」を入力する、

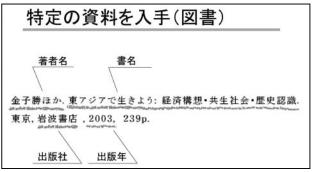
というコツが要ります。かなり時代遅れな道具だと思います。図書館の怠慢です。しかし、繰り返しますが、図書は書名でも著者名でも出版者でもかまいませんが、雑誌論文の場合は「掲載雑誌名」で探す。これが蔵書目録のコツになります。さて、確認しましょう。次の例で、蔵書目録に入力すべきキーワードは何でしょうか?

Q1 何が蔵書目録に入力すべきキーワードで しょうか? 一雑誌論文



答え: 科学(掲載資料名)

※ ただし、「科学」一語で検索すると膨大な件数が ヒットするので、完全一致検索(慶應の蔵書目録の場 合は「正確な書名・誌名」)や媒体指定(同、検索対 象で「雑誌」を選択)と併用する方が効率的です。 Q2 何が蔵書目録に入力すべきキーワードで しょうか? - 図書

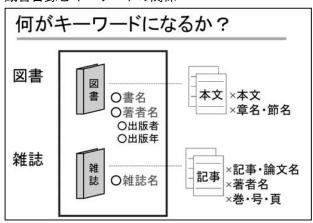


答え: 東アジアで生きよう (書名のみ) 金子勝 AND 東アジアで生きよう (著者名 AND 書名) 金子勝 AND 出版年を 2003 で指定 (著者名 と絞り込み検索=出版年) など。

図書と雑誌の見分け方を説明します。『AERA』をよく例に出すのですが、『AERA』は「今週号」、「先週号」、「来週号」というふうに、『AERA』という名前で〜号というように刊行されているよね、それでは、OPACの目録画面のなかに〜号というのはどこにあるかというと、ここにあるよ、と巻とか号というものの存在を教えます。ついでに、英語では Volume とか Number とかいうんだということも教えてくださいね。このような掲載巻、号の情報があれば、それは雑誌だよ、というのがひとつの見分け方です。

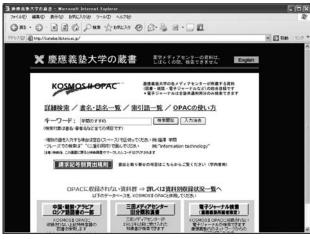
もう一つ、このふきだしの数を見ていただきたいのですが、雑誌は6個ありますね。図書の場合は4つ。つまり、図書の場合は著者名、書名と極端なことを言えば、出版社、出版年さえあればいいのです。ですから、要素がシンプルならそれは図書だよというのもひとつの見分け方です。

蔵書目録とキーワードの関係



それで結果、何をキーワードに OPAC に入れますかと いうときに、図書は大丈夫です。雑誌が問題です。学生は、 著者名とか記事名で検索してしまうのです。 OPAC は、 あくまでも器しか検索できませんので、雑誌名、載って いる雑誌名で探しなさいということを強調していただき たいと思います。この例で言うと「科学」というものです。

この辺については最初にご紹介した PATH のモジュー ル4がコンパクトにまとまっていますので、そちらを上 映していただいても結構かと思います。





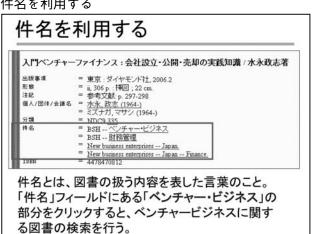
蔵書目録の使い方なのですが、検索画面は一つ窓、 Google 形式の簡易検索モードと、詳細検索モードがあり ます。雑誌を入手するときには絶対に詳細モードを使っ てください。なぜかというと「雑誌」と限定ができる し、「正確な書名、誌名」というラベルが使えるからで す。例えばさきほどの「科学」という雑誌を検索すると きに、ただ「科学」と入れると悲劇が生まれます。1000 件以上の「科学」が出てきてどれを探したらいいんだと いう話になります。詳細モードには「正確な書名、誌名」 というラベルがありますので、こちらを指定して、「科学」 と入れていただければ、検索結果に一件しかでてきませ ん。そのほかに、例えば英語の本を探したいとかいった ときには、下のほうに「言語」というものがついていま すし、DVD のリア王を探したいという人は DVD という メディアを選択するとかできます。細かい指定をしたけ れば詳細検索画面ということを覚えておいてください。

テーマから図書を探す

- 1. 蔵書目録の件名を利用する
- 2. 分類番号を利用する
- 3. 巻末の参考文献リストを利用する
- 4. Webcat Plus を利用する

次に「テーマ」から図書を探す方法です。学生の蔵書 目録に対する大きな不満は「内容から図書が探せない」 らしいのですが、その方法です。ここでは 1、2、4 の 3 つについて紹介します。

件名を利用する



1つ目と2つ目は蔵書目録を使った方法です。件名というのは、蔵書目録で図書を検索し、詳細結果画面の書誌情報の中に記述されている項目です。蔵書目録はデータベースですので、検索効率を上げるために、一定の基準に従ってデータの整備を行っています。件名とは、その図書の内容に関するラベルです。1つの図書に複数のラベルが貼られていることもあります。

通常の検索では、とりあえず1回、検索をします。その検索結果の中から、気になるものを数件選びます。そして、その書誌事項に付与されている「件名」の中に付与されているキーワードをクリックします。すると、同じラベルを持つ他の資料を再検索できる仕組みになっています。件名検索には、書名中に探したいキーワードが含まれていなくてもヒットするという利点があります。

これは実演をしたほうがいいので、さきほどの「焼肉」でいってみましょう。

今からやろうとしているのは、あいまいな検索です。 焼肉に関して探したい。そのあいまいな検索は OPAC の「簡易検索モード」が向いています。とにかく「焼 肉」と入れて検索をすると何かがヒットします。それで 学生は、この本見つかった、と言って終わりというのが パターンです。しかしここで終わっては意味がありませ ん。例えばこの二番目の図書、これがよかったとしま しょう。このとき、「件名」という部分に注目して下さい。 これは Google になくてデータベースにしかないもので す。これは、OPAC の面倒を見ている人が貼ってくれた、 この本の内容を言葉で表したラベルです。例えば一番上 の「朝鮮料理」というラベルが面白そうだなと思ったら、 ここの部分を押してください。すると朝鮮料理に関する 文献が集まります。

こんな感じでテーマから探すときには、「件名」というラベル(「詳細検索モード」ではサブジェクトエリアにある、何個かのラベル)を見比べながら押してごらん、とご指示いただければと思います。

分類番号を利用する

分類番号を利用する

図書館の本棚では、扱っている主題(内容) によって図書は並べられている。



つまり、自分の探したいテーマの数字さえ分かれば、該当する番号の本棚で直接探すことができる(ブラウジング)。

もう一つ古典的なテクニックがあります。ご承知のように、図書館の図書の背表紙には請求記号と呼ばれる「ラベル(シール)」が貼ってあります。このシールにある「数字」の部分に注目した検索法です。日本の図書館の多くは「日本十進分類法」という約束事にしたがって図書の分類を行っています。この分類番号が「テーマ」を表現しているのです。例えば、経済学は330番台となり、経済理論なら331、経済事情なら332、経営学なら335という風に表現されます。図書は、書架ではこの番号の順(000から999の昇順)になっていますので、同じテーマが近くの本棚に配架されることになります。本棚から直接本を探す方法=ブラウジングです。

問題は、この「数字」の検索ですね。図書館員は仕事なのである程度暗記しますが、一般の方にそれを求めるのは無理な話です。その簡単な見つけ方でも蔵書目録を使います。例えば「消費者の購買心理」について探しているとします。この場合、とりあえず、蔵書目録に向かって「消費者 AND 心理」と 2 語をスペースで繋ぐ AND検索をしてみましょう。何件かヒットしますよね。そこで一覧結果(リスト)画面をよく見ます。慶應の蔵書目録では右側にある「請求記号の数字」の部分です。さぁ、どんな数字が多いですか? 675、675.2、674.1、673.7ですかね。では、ここに「日本十進分類法」がありますので確認してみます。

675 マーケティング

675.2 市場調査、市場予測

674.1 広告理論·心理

673.7 小壳業、小壳市場、専門店

最後の 673.7 は、ユニクロに関する本だからこの番号 なんでしょう。でも、他の3つはイイ線行ってますよね?

こんなふうに数字によってブラウジングして目星をつけて、再度さきほどご紹介した件名で検索してみるとか、 件名と請求記号で組み合わせができます。

このように蔵書目録は、ピンポイントにこの本が図書館にある、ない、にも使えますが、件名や分類番号を使うと、テーマからも図書を探すことができる道具です。

WebcatPlus



今度はハイテクです。WebcatPlus(Webcat プラス)と 呼ばれるデータベースです。

このデータベースは、1986 年以降に出版された図書の 目録情報や帯情報、概要といった情報を持っており、 キーワードだけでなく、なんと文章による検索も可能で す。こんな風に使います。

あるWeb上で読んだニュースが気になったとします。その件に関する図書の探し方です。Webニュースの本文部分をコピーし、WebcatPlusに貼り付けます。検索を行うと、データベースがテキスト分析を行い、入力した条件に近い図書をリスト表示します。ポイントはここからです。今、画面に表示されているのは「仮の検索結果」だと思ってください。表示されているリストの図書で読みたいものがあれば、その左端のチェックボックスにチェックを入れます。次に右側の「関連ワード」の中に気になるものがあれば、こちらもチェックします。もう一度、「検索」ボタンを押します。すると、今、選択しているものと似通った図書が表示されると思います。仕

組みとしては、データベースが持っている1件ごとのレコードが持っているスコアと、利用者が入力した情報のスコアを比較し、近似値のデータを表示しているらしいですが、知らなくても大丈夫です。読みたい図書が見つかれば、タイトルをクリックしてください。詳細画面には「目次情報」や「内容(要約)」といった図書の内容に関する情報を得ることができます。残念ながら、慶應の蔵書目録とのリンク機能はないので、慶應で入手したい場合は「書名」や「著者名」で慶應のOPACを再検索します。ここは面倒ですね。

まだ完全ではありませんが、中身から本が探せる、という部分が学生には好評です。ただし、検索結果は曖昧になるので、研究者の検索には向かないかもしれません。また、WebcatPlusの新書版である「新書マップ」というデータベースも公開されています。



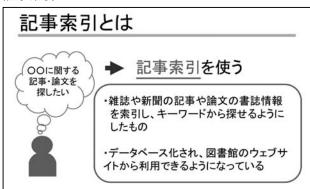


雑誌を探す

雑誌:継続して発行される出版物。分冊は、巻号、年月日により区別できる。通常、終期を予定せずに発行される。雑誌には、一般雑誌と学術雑誌と呼ばれるものがある。電子化されたものは、それぞれ、e-journalと呼ばれる。

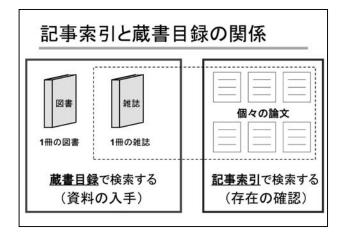
雑誌を探すにはどうするのか教えるときに、さっきと は違う検索エンジンを使うとご紹介いただければと思い ます。論文・記事を検索する時に使うのは「記事索引」 です。図書の時に紹介した蔵書目録とは別の道具です。

記事索引とは?



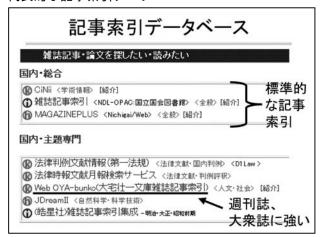
ここで「蔵書目録」と「記事索引」という二つの道具が出てきたので二者の関係を整理します。まず、蔵書目録ですが、具体的な「資料の入手」に用いる道具です。これに対し、記事索引は1つ1つの雑誌論文・記事の「存在を確認」するために用います。

記事索引と蔵書目録の関係



まず雑誌を探すときには、世のなかにどんな記事、論 文があるかということを確認する、そのときに使うのが 「記事索引」です。そしておもしろそうなものが見つけた らゲットする、そのためにはさっきの「蔵書目録」で図 書館にあるかないか、調べるのです。つまり、論文の場 合、どんな論文・記事があるか? というステップと、ど う入手するか? (掲載雑誌名で蔵書目録を検索)というステップの2ステップに分かれます。ここで必ず、「蔵書目 録は雑誌名で検索するんだ」ということを念を押すわけで す。彼らは素直なので必ず論文名で引こうとしますから。

代表的な記事索引データベース



記事索引はデータベース化されていますが、言語により、特徴が異なります。英語の場合、通常は分野ごとによって作成されています。医学なら PubMed(Medline)、数学なら MathSci、心理学なら PsycINFO、言語学なら MLAといった形で、分野の定番とも呼べるものがあります。

これに対し、日本語の場合はそれほど数がありません。日本語一般なら画面の「国内・総合」にある、CiNii や雑誌記事索引(国会図書館)が基本となります。科学技術の場合は JDream、週刊誌や大衆誌ではWeb Oya-bunko というのもありますが、大抵の場合は、CiNii か雑誌記事索引で十分だと思います。

両者の違いですが、ベースとなるものは同じです。両者とも国会図書館の雑誌記事索引が基本となっています。CiNii には日本語では希少な全文情報が付いています。従って、学生にはCiNii を案内しています。サーチエンジンで「CiNii」と検索すれば出てきます。

CiNii の検索実習

実際に検索してみましょう。ここで、先ほど「紙に書く」で習った技法を使ってみましょう。

日本人にとって朝鮮料理と言えば焼肉ですね。「焼肉」と入力します。これはまあ大丈夫だと思うのですが、さっき「ホルモン」とか「カルビ」という言葉も入れていましたね。こういう言い換え表現のものについてはandではなくor検索、どれでもいいよというものなので、どれかを含む、とやるとこの三つの、何でもいいからグループで検索することができます。ということで、上段のボックスには「焼肉orカルビorホルモン」といった同じ概念を入力します。右端の「検索後の組み合わせ」を「どれか含む(or)」に変えます。

そして and で絞り込む相手側は何にしようかと考えます。さっきは人のことがあったので、下段には「韓国人」、「朝鮮人」そして「在日」。これらは or の関係ですから、「朝鮮人 OR 韓国人 OR 在日」と OR で結びます。そして、この両者を AND 検索で絞り込みます。

このようにしますと、グループAとグループBの重なる部分でもれなく検索することができます。つまり誰とか何といったものでグループを作ってみる。グループ内は or で関係を広げてみる。異なるグループでは andで絞り込むというようなことを説明してあげるとわかりやすいと思います。このようにして検索すると、6件ほどヒットしました。2件目や3件目、5件目などが関係していそうです。

CiNiiの検索実習 表示件数: 25 💌 表示順: 出版年(新しい順) 💌 検索 クリア ◎ 全件 ○ 本文あり ○ 本文/ 他サービスリンクあり 検索語の組合せ フリーワード 💌 焼肉 カルビ ホルモン どれか含む 💌 AND V フリーワード V 朝鮮人 韓国人 在日 どれか合む 💌 1 (11000843829)金延恩、松田康子、小川久恵、松本井子 SD法による日本・韓国・中国・西洋各科理と対する概念の日本人と韓国人の比較 女子寄えず紀夏、3645-97,3005000(388 (289031) (参川東倉干御女子来倉入事) 電影子・カース・1881 - 881-38 ■相勝アータベース:NDL NII-ELS ■本文: 図CNII回回 園 対線あり SSee 2. [40038898237] SPECIAL REPORT 食文化 焼肉を発明した在日のソウルー1世が生み出し、3世が発展さ1 ニーズウィーラ 1845 (番号 383)34ー23,2001/126(2031 05)2001) (信息コミニケーションズ) ■収録アータベース:NDL ■本文:なし Section RefWorks (4000mの502) 在日本朝鮮人商工連合会同販飲食業者協議会の勉強会に学ぶ--焼肉のルーツは「在日」 挽肉||仕入れの工夫で図る差別化| ネポジャナル 706(過ぎ 40)40-51,2000(食肉適佳社 (細)食肉適佳社) 申収録データペース:NDL■本文:なし■本文:なし■本文:なし (110008813030)活野加寿恵 成長ホルモン欠排症(<特集>頭蓋咽頭腫) 四端音亀40--ナル 641,40-241,970400(353) (日本届神経外料エンヴレス) ■旧辞データベース:CP書は NILELS ■本文: □CNICCI 回が持あり 配 今年文献 14件 ※ SMILENE CON RETWORK

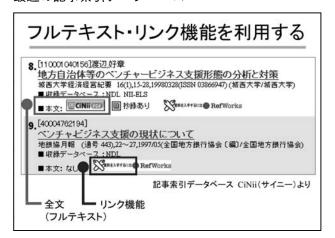
ここまでが伝統的な記事索引データベースです。

論文・記事を入手する

- 1. データベース内にあるフルテキスト(全文)を利用する
- 2. リンク機能を使う
- 3. 紙の雑誌を蔵書目録で検索する

CiNii のような最近の記事索引データベースを使った場合、論文・記事(本文)を入手する方法は3つあります。伝統的な方法が3番目で、さきほどから蔵書目録の使い方で説明している方法です。プラスαに当たるのが上の2つとなります。

最近の記事索引データベース



まず、データベース内に「全文」が収録されている場合があります。CiNii の場合は「本文」の隣にボタンがあります。これを押します。データベースによっては、PDFやHTMLなどいくつかのファイル形式で提供されています。次に、全文が収録されていない場合ですが、先ほどの本文の右の方に「慶應のペンマーク」がありますので、このボタンを押してください。

最近は技術の発展により、わざわざ記事索引⇒蔵書目録と再検索する手間を省く仕組みが導入されています。「リンクサービス」と言います。慶應図書館の場合、あるリンクサービスと契約しており、そのサービスに慶應で所蔵している雑誌のデータを入力しています。この結果、ボタン一つによる自動検索が実現しています。

ただし、日本語資料の場合には問題もあります。まず、

電子化されている図書や雑誌の全文情報の数が、英語・中国語・韓国・朝鮮語と比較すると圧倒的に少ないのが現状です。また、雑誌や論文間のリンク情報に必要なデータの書式が整っていないために、上手く自動検索が行えないこともあります。ですから、当面は、全文・リンクをクリックし、駄目だった場合は、念のために蔵書目録を掲載雑誌名で探してみる、という3つの方法を併用することをお勧めしています。

統計・データを探す

・学生さんは「データ好き」

データ = 説得力がある、というイメージか? 授業によっては「データ付き」の指示もある

・統計と調査(アンケート)の区別がつかない

統計 = 国や国際機関が行う大規模調査

調査 = 統計以外。世論調査や社会調査、

アンケート調査まで多種多様

雑誌が終わりましたので、次が統計になりますが、いまの学生は圧倒的にデータが好きです。これには二種類あって、一つには授業でデータをつけるようにと指示されている場合もあるらしいのですが、それよりも、どうも本を読むよりも数字で説得したいという思う学生が多いようです。ただし、彼らの探し方を見ていると、やはりめちゃくちゃです。なぜかというと統計を調べるときには、統計と統計以外のもの(調査、アンケートなど)とを区別する必要があります。統計とは、国や国際機関によって大規模に、かつ継続的に行われる調査のことを言います。一回限りしか行わないものは、すべて調査と言い、統計以外のものとなります。彼らはこの区別がついていないので、統計・データを探すことができないわけです。

統計・データを探すツール

・二次統計資料 (代表例. 日本統計年鑑) 統計の「カタログ」 イメージが掴める、出典が分かる 出典が分かれば統計は Google で入手可能

統計を探すためには、二次統計資料を使うのがポイン

トです。Googleで「日本統計年鑑」と入れていただければ間違いなくページがありますし、同じものが冊子でどこの図書館にも絶対に置いてあります。

この「日本統計年鑑」とは何かというと、統計の総合 カタログです。日本人の死因とか体格、家計、そういっ たことを知りたいときに、各省庁が行っている統計を、 トピックで分類してカタログの形で提示してくれます。 カタログですからイメージが掴めるというのが絶対的な 強みです。さらに良いことに、「~調査による」という ふうに出典が書いてあります。そしてこれがポイントな のですが、いま日本の政府は情報公開の法律の関係で、 統計類はオープンにしなければいけないことになってい ます。つまり、出典、調査名がわかれば Google で検 索して入手することができるのです。学生が統計を探せ ないのは出典名を知らないからというだけなのです。で すので、カタログを見て何の調査が必要かということが わかれば Google で検索できると教えてあげれば、それ で大丈夫なのです。出典から Google で検索するという 回路がないので探せないというのが、学生が躓いている ところです。

・新聞の活用

統計や調査などは一般の人にも関心事 紹介記事や記事の解説として引用される

このような統計調査というのは新聞のネタになります。例えば内閣の支持率ですとか、日本、中国、韓国はいま仲が悪いですが、どれぐらいお互い嫌いかとか、そういったことは一般の人の関心事ですから、新聞記事になりやすいわけです。ですので、新聞記事に取り上げられてないかという視点で探すこともできます。新聞を探すデータベースで、例えば、「日中韓」「好き嫌い」「調査」あるいは「世論調査」「外交」とかいったキーワードを入れると何かがでてきます。

あるいは、「給食」。給食費未納の問題で学生は大好きなテーマです。ある時、学生が「給食は廃止すべきか残すべきか」というテーマを設定したので、そういう調査、データが欲しいと言ってきました。それで「給食廃止」というキーワードで新聞を検索したところ、1992年に

埼玉県のある町で村長さんが給食をやめるといきなり言い出したという記事にぶつかりました。食事とは家庭の問題だ、親子の愛情が何よりも大事だ、ぼくはそう思う、だからやめる、というすごい村長さんがいて、それで大騒ぎになったんですね。それがきっかけで92年、93年に給食廃止論が全国的に盛り上がったらしく、新聞記事がその時期に集中して出てきました。そのなかに学習塾の公文が行った調査が引用されていて、実に90パーセントの親御さんがやめないでと答えたそうです。なぜなら面倒くさいからと、そういうコメントがありました。あとは給食がおいしいからというコメントがありました。あとは給食がおいしいからというコメントもあったそうです。そういう調査結果が残っていました。こんなふうに使っていただくと、新聞も意外と使えます。

・調査の主体が「誰?」を意識する 統計・調査にはコストがかかるので、当事者や関心 を持つ人・団体が調査の主体となる

実は今の公文の調査とも関係しているのですが、統計 とか調査にはコストがかかりますので、限られた人や団 体しか行わないのですね。ですから誰がやっていそうか イメージできると検索することができます。

例えば、「日本のミネラルウォーターの年間消費量」。 やってみましょうか。わかっているのは「ミネラルウォーター」ですよね。わかっている名称を入れます。そしてこういうものには必ず業界団体というのがあるはずです。ですから「団体」と名乗っているか「協会」と名乗っ

「飛び出す図書館」

毎学期 30 名前後の「英語セミナー」(週二回:半期)を担当している。学生は、あるテーマに沿って文献を読み、討論や発表を通して知識を深め、学期の中盤からは各自リサーチを進め、文献情報も付加して 1000 語~2000 語(レベルによる)のレポートに仕上げる。相方とのディベートの準備におわれつつ自分の課題も走らせるので学生は図書館通い・友人との相談に大忙し・・・と思いきや、困った変化が表れた。家にいてワンクリックで上位に出てくる情報だけ拾い集めてレポートを書いたり、ディベートでは相方と完全に分担し、一人で原稿を準備して意思疎通をせず本番に臨む学生が出てきたのだ。

これはいけない。書棚の前であれこれ本を手に取りパラパラしつつ途方にくれたり、役立ちそうな資料を発見して飛び跳ねたり、友人とワイワイ話して出た疑問をその場で調べたり、大袈裟だが五感をフルに働かせて課題に取り組む経験を、日吉にいるときにこそ積み重ねてほしいのに!

そこで3年前からレファレンスコーナーの司書の 方々に授業内外でサポートして頂いている。ある年は 端末の前や教室で出前授業をお願いした。世に出回る 情報の種類、課題に取り組む際の「問い」の立て方、

鈴木 亮子 (経済学部准教授)

英文記事データベースの検索方法と情報の選び方、情報を適切に扱うことの意味と方法など、幅広い観点から私の授業の内容を踏まえてお話頂き、自分自身も有難い発見をした。今年度は出前はお願いできなかったが、学生に図書館に足を運ぶよう言い続けた。嬉しいことに図書館の書籍を利用したり、レファレンスコーナーに相談に行ったり、データベースを使って英語の記事を検索してディベートやレポートに使った学生が増えた。また260名履修の総合教育科目(言語学)の学生にも、レポート課題の説明の折にKITIEを紹介して引用や参考文献の作成の際に利用するよう薦めたところ、役立ったというコメントが多く寄せられた。

このワークショップでは、レファレンスカウンターから見える、課題に奮闘する学生の躓き、そしてそれに気づかずアドバイスのツボを外す教員の躓きについて大いに教えられた。また教員が研究者として利用できる最新のサポートについても学べた。かつて図書館と呼ばれていた場所が、あらゆるメディアの知の中心として、外に飛び出して進化を続けるように、教室にいる側も狭い箱から飛び出して貪欲にメディアセンターという財産を利用していきたい。

ているかわかりませんが、これで検索をしてみると、「日本ミネラルウォーター協会」というのが出てきました。 そこに統計資料というのがございまして画面で見ることができます。これは仕込んだわけではありませんよ。このように、ある業界に関する情報をまとめた団体が意外とありますので、学生のレポートには充分な情報を手に入れることができます。こんな感じで調査を集めてみたらということを学生さんにはオススメしています。

あるいは学校給食の一ヶ月あたりの金額。保護者がい くら払っているか。払えないといっているけれど、いっ たいいくらなら払えないんだという疑問を持ったらしい んですね。こうした場合、「学校給食は誰がどこでやっ ていますか?」と彼らに質問します。――学校。「じゃ あ学校を管理しているのはどこ?」――役所。「どこの?」 ――文部科学省。そうです、文部科学省のページにいく と「統計」とか「給食」というキーワードで出てきます。 最後の例です。小学生が学校のトイレで用を足す回数。 これは「TOTO」です。便座のメーカー。最初は「INAX | かと思って探したらなかったので、ちょっと落ち込んだ んですけど、TOTO にありました。つまり、こんな問題 は自分に必要や責任がなければ調査したりしないわけで す。ですので、逆に誰に必要や責任があるかということ を考えると意外と答えが出てくるものです。「誰」とい うのを意識させるといいと思います。

Web を探す

学生さんは・・・

- ・Web がもっとも身近
- ・Web で入手できない=(この世に)存在しない
- ・Web に怪しい情報が存在することは認知 (多分) 自分は大丈夫だ、と思っている
 - ⇒ 使うな、よりも、賢く使えの方が現実的 ※ 統計、政府などは Web が一次資料

最後はWebです。学生さんにはもっとも身近なメディアです。ここは大事です。学生は、「Webで入手できないものはこの世に存在しない」と本当に思っています。この認識をシェアできるかどうかが、これからの学生さんに情報検索を教えられるどうかの鍵だと、わたしは骨

身に染みました。

「Web で入手できないものはこの世に存在しない――そうかね?でも別の世界もあるよ。ほらあそこ見てごらん。本棚に本があるよ」と話をするんですけど、長田進先生の授業では新聞紙の現物のコピーを用意させるんですよね。それぐらいやらないと学生への意識づけは難しいと思います。

学生は賢いので、Web に怪しい情報が存在することは 知っています。でも若いので、たぶん自分は大丈夫、だ まされないと思っていてひっかかっています。

Web は使うな、Web 禁止というのは、やめたほうがいいと思います。ご紹介しましたように、統計とか政府の情報というのは、もはや Web が一次情報になっていますので、これを禁止してしまったら身動きがとれなくなってしまいます。ですからやはり TPO で使い分けなさい、使ったら出典を書きなさい、出典を書けば判別できるからというように、「賢く使え」の方向にナビゲートしてあげるといいと思います。最初から Web を使わせると勉強にならないから禁止するという場合はいいと思うのですが、その場合には Web では扱えないテーマを選ばないようにご指導いただければと思います。

一般的な情報収集パターン

一般的な情報収集パターン

	インターネット	テレビ	新聞	雑誌·書籍
ニュース	67.4	84.0	62.2	5.0
仕事の情報	61.6	12.8	26.0	30.9
勉強の情報	65.1	11.9	15.5	46.2
趣味や遊びの情報	88.6	35.6	11.6	46.7
旅行やお店の情報	80.3	28.1	11.5	44.8
生活情報	73.3	45.9	26.1	29.4
健康情報	62.9	46.6	20.5	29.8

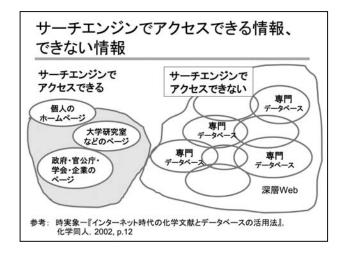
総務省「ネットワークと国民生活に関する調査」(平成17年3月) Ⅲ インターネットの利用・満足度 図表39より 複数回答可、数字はパーセント

一般的な情報収集のパターンです。これは総務省の統計です。見てください。今時は、老いも若きもみんな本当にインターネットしか見ないんです。衝撃的ですよね。だってテレビのニュース以外は全部インターネットが一位なのですから。ニュースでさえ新聞を見なくなってき

ているんです。ですから新聞はいまのところはまだ 60 パーセントはありますけど、この先本当に危ないと思います。もっと危ないのは雑誌・書籍です。仕事の情報でさえ、雑誌・書籍からというのは 30 パーセントにすぎません。つまり、いま会社員は Web で企画書を書いている、もしくはゆくゆくそうなりかねないということです。これが一般国民の情報収集のパターンです。

サーチエンジンでアクセスできる情報、できない情報

このような現状の中で、インターネットを賢く使うために、サーチエンジンは万能ではないということを学生に伝えています。当たり前ですが、サーチエンジンはアクセスできる領域とできない領域があります。



Web に関しては一番重要だと思っている絵です。この絵の意味は、ネット上の情報源には、サーチエンジンでアクセスできるものと、できないものがある、ということです。そして、その割合は、

アクセスできる くできない

と言われています。アクセスできない情報源のことを 専門データベース、又は「深層 Web」と言います。

サーチエンジンでアクセスできる領域とできない領域の比率ですが、バーグマン推定(2001)によると、アクセスできる領域を1とすると、アクセスできない領域は500だそうです。そのぐらい企業はプロテクトしているということです。考えてみれば当たり前の話です。どんな情報だって本当はイントラネットというネットワークの

なかにあるわけですから。とはいえ、1 対 500 だよと言ってあげると、学生は目を丸くします。

サーチエンジンでアクセスできない情報源

- 1. 蔵書目録
- 2. 記事索引データベース
- 3. 電子ジャーナル

では、アクセスできないものにはどんなものがあるかというと、専門のデータベースというのがあります。ここでわたしはよく新聞を例に使います。

例えばある新聞記事を探す場合、だいたいの学生がその記事の内容を表す言葉を、いきなり Google にキーワードとして入力します。○○新聞の何月何日の何面に載っているという情報をこちらが与えていても、学生はGoogle を立ち上げます。するとブログが見つかるんですね。それで、「見た」と学生は言うわけです。しかし、それでは見たことには全然ならないわけです。こういうパターンが一番多いです。

そして二番目に多いのは私が与えた「○○新聞」という情報を使って、○○新聞のサイトに行きます。ちょっと賢い子ですね。新聞のサイトで検索しますが、インターネットの新聞のサイトには当日の記事のほんの一部しか載っていないということを彼らは知らないのです。しかも、載った記事は一ヶ月とか一週間という短い期間で削除されてしまうということをほとんど知らないのです。

そこで問いかけます、「新聞って日吉駅で買うとタダ?」って。「インターネットでタダで見られたらどうなる? 新聞社が潰れちゃうよ。だから、インターネットのサイトの報道は、自分たちが知って欲しい最低限のことしか載っていないよ」と。そして、「記事を全文見せる場合はだいたいは有料にしているんだよ」と教えてあげます。その後に、新聞記事のデータベースを紹介します。現実的な場面ではこうです。例えば、朝日新聞の記事を探していたとします。朝日新聞のサイトはサーチエンジンからもアクセスできますが、このサイトには「当日の主要な記事」「最近、話題になった記事」といった感じで限定的、一時的に記事が収録されています。これに対し、朝日新聞は「聞蔵(きくぞう)」という新聞

記事データベースをもっており、こちらでは1945年以降のすべての記事が検索できます。1945年から今日までですから、60年以上の新聞記事が全部ブラウザで見られるようになっています。「さぁ、レポートで使う情報源として、Googleとどっちがいい?」と聞くと、もちろんこっちということになります。こんなふうにナビゲーションをするようにしています。

新聞記事データベースはフルテキストで収録されていますし、朝日新聞と日経新聞については画像のイメージ、新聞記事の切抜きがデータベース化されています。まさに PC の画面上で新聞記事が読めるわけで、ものすごくオススメです。その上で、刷り込みをかけるわけです。このような専門のデータベースに何があるかというと、蔵書目録、記事検索、電子ジャーナルなどがあるよ、これらは研究に必要な道具で、図書館のホームページからアクセスするんだよと言って、図書館の価値を再認識させ、我々は生き残りを謀るわけです。

インターネット上の情報の特徴

- 1. 情報の質は様々
- 2. 有料のもの、無料のものがある
- 3. 組織化されていない
- 4. 多くの情報は断片的
- 5. すぐに無くなってしまったり、内容が変更 されたりする

Web 情報源の評価

ドメイン名を見る

edu / ed, ac · · · 教育機関

gov/go ··· 政府機関

org/ or ・・・ 非営利組織

com / co ··· 企業

net / ne ・・・ ネットワーク業者

blog ··· ブログ

また、情報源の評価という話もセットでします。Web の情報源を評価するには、URLのドメインの部分、つまり、インターネット上のサイトの住所なのですがここを見なさいと言います。この斜線の左側はアメリカ式です。

それ以外はアメリカ以外の地域(とアメリカが言っているんですね)の書き方です。

edu、日本式に言うと ed とか ac ですね、これは学術機関、 教育機関を示しています。 ——先生のページは大丈夫だ ろうけど、学生のページは疑ってかかれよ。

gov や go は政府機関。——まあ、政府が嘘をつくこともあるけれど、信用するしかないね。

org や or は非営利組織。——非営利組織の質にもよるけど営利組織よりはましな部分もあるかもね。

そして、com/co、net/ne、blog と、下にいけばいくほど、 あなたたちこのへん使う? というようなことを確認さ せています。

・いわゆる「5W1H」を見る

著者名(本名・仮名)、ページタイトルの有無 更新日の有無と日付

スポンサー、広告の有無

想定する読者(万人用、研究用、宣伝用?)

・似たような情報の存在

図書や雑誌で同じような情報があるか?

→ リンク切れ対策

もう一つはいわゆる「5WIH」を使いなさいということです。仮に使える情報が見つかったという場合、まず「著者名」を見なさいと伝えています。ウェブの世界は匿名性が高い世界ですが、レポート等で使う情報として未記名だったり、「赤い狐」とか「緑の狸」という情報が相応しいか? という形で指摘します。また「喫煙」「禁煙」のトピックに関する情報を探している際、自分は喫煙派として、自分の意見を補強してくれる意見があったとします。でも、その情報は「JT(日本たばこ)」の「サイト」にある、ということもあります。フィルターの問題です。誰が、いつ、どこで、何のために、どのように?といったポイントから評価することを勧めています。

また、最近は広告連動型のコンテンツというのも多くなっており、巧みに製作者の意見を刷り込まれる危険性もあります。「宣伝向け? 宣伝の研究ならいいけれどもここで使う?」こういうときはそのホームページがどんな読者を想定して作られているかイメージしてごらん、

というような視点を与えてやると、チェックポイントとしては意外にいいのではないかなと考えております。

最後に、先ほど新聞のサイトのところでも少し触れましたが、インターネットの情報にはリンク切れという問題が常につきまといます。あなたが、レポートで使った情報がリンク切れになったらどうする?それが正しい情報かどうか読んだ先生は確かめることもできないし、あなたも再確認することができなくなるじゃない。同じような情報が図書や雑誌から引けるならそっちのほうがいいんじゃないということも話します。

情報の活用

自分の論の補強のために他人の意見も参照 そのために自分と他人の意見の区別が必要

倫理的な側面 = オリジナルの尊重

法律的な側面 = 著作権の保護

⇒ 剽窃は倫理的にも法律的にも許されない

では、どうやって回避するか?

他人の意見の出典を明示し、区別を行う

評価の次は活用です。こういうことを教えるときは、

「リテラシーセミナーの授業内効果と今後の可能性について」

森吉直子 (商学部准教授)

商学部で英語の授業を担当していますが、プレゼンテーションの課題においては、論旨の展開に肝要となるデータ収集スキルの育成にも力を注いでいます。その背景には、学生がデータの質の見分け方、データ収集方法、そして論旨の展開に必要となるデータの取捨選択において大学に入るまでに十分な訓練を受けているとは言い難い状況があります。手軽にアクセスできるGoogleやYahooからデータを寄せ集めようとする傾向が顕著です。YahooやGoogleにリンクされているデータが必ずしも信憑性を欠くとは言いませんが、主体的に質の高いデータを選んでいるとは言えない現状です。

そこで、まずプレゼンの展開に必要となる Logical Thinking について学習してもらいます。個々のプレゼンにおいて、想定する結論に至るまでに必要となるポイントとそれを支持するために必要なデータについて考察し、次に、実際にそうしたデータを収集するためにはどうすればよいか、実践的なスキルの習得を、日吉メディアセンターの協力を得てそれぞれの授業内容に合わせてプランして頂いた「リテラシーセミナー」で目指します。その日限りの学習に終わることなく、継続的にスキルを駆使して習得するために、授業内プレゼンで使うデータはセミナー内で学習したスキルを駆使して得た信憑性が高いデータに限ります。

こうした「リテラシーセミナー」と授業とのコラボ レーションは、セミナーの導入前後で比較すると非常 に質の高いプレゼンにつながっていることが実感できます。メディア担当者の方々には毎年多大な労力と時間をお掛けしているかと思いますが、このセミナーを授業で1回でも経験するのとしないのとでは大きな違いがあります。しかしどんな有益な講義もただ受身的に参加しているのでは効果は期待できません。そこでセミナーの効果をより高めるために、事前に課題を与えて(自分のプレゼンのためのデータ収集など)当日データを実際に検索する作業を通して、主体的な学習に結びつけるようにしています。

リテラシーセミナーを受講することで、それまで意識していなかった「データの意味、質」というものを自分の問題として考える機会が生じます。こうしたセミナーは、本来「教養」の一部として全学生に必修化してもよいのではないかと思うほどです。説得力のある、アカデミックな視点に立った論旨を展開するためにも、質の高いデータを精選するスキルの習得は肝要です。可能であれば、リテラシーセミナーを独立した授業として設置して、1学期分の時間をかけて、データ収集から論文の作成まで指導すれば、かなりの力がつくのではないかとセミナーを受講する度に思います。セミナー後も何かと不慣れな学生の指導に当たって下さっているメディアの方々の平素のご尽力のお陰で私の授業は成り立っています。心より感謝しています。

具体例があったほうがいいと思います。最近の例でソウル大学の万能細胞の例とか、古い話ではベル研究所の論文偽造の話とか、ああいう話を出して、あの人たち今どうしてるかな?この業界は厳しいんだよ、と認識させて、その上で、だからどうすればいいかというと、自分の意見を見と他人の意見をきっちり区別しなさい。自分の意見を補強するために他人の意見を使わせていただいているんだから、きちんと出典を明示しなさい、そのためにも参考文献は大事ですよということをご紹介いただくといいと思います。

無意識にやってしまう「孫引き」

オリジナルの研究(A)

1

ブログや Web ページで A を紹介・引用(B)

 \downarrow

学生は B を引用することが多い

Bの成果の全体を使う⇒B

B の一部(しばしば A の引用部分)を使う ⇒ A

学生がよくやってしまうのが孫引きです。とくにWebで引っかかります。どういうことかというと、例として統計がわかりやすいのですが、統計調査を総務省(A)が行っていたとします。それを賢いアナリストが自分のページの論文に使っています。「三菱総研」とありますので情報源としては間違いありません。ただ学生がほしいのはそのアナリストの論文(B)ではなくて総務省が行った統計調査の表なんです。しかし、こういうとき学生は何を使うかというと、迷わず論文(B)に引用されたものを使うんです。

このように学生は悪気無く無意識のうちに孫引きをしてしまう可能性があります。したがって、こういう場合、「表を使うならAを見なきゃだめだよ。アナリストの意見全体を使うならBだよ」と説明していただだいた方がよいと思います。これはちょっと高級なので一年生で教えるかどうかは議論の余地があるかもしれませんが、学生の参考文献の書き方を見ているとけっこうやっています。

■まとめ

学びの場としての図書館

そろそろまとめに入りたいと思います。最初にご紹介しましたように、図書館もだいぶ変わってきています。そもそも学生は居場所を確保するために図書館に来ます。そんななかで我々の守備範囲はいったい何なのだろうと、スタッフは日頃感じています。資料の収集、整理、提供というのが図書館の大前提ですので、普通はパブリックサービスということで「資料の探し方」をサポートするということをしています。するとこんな質問が来るわけですね、「レポートの書き方を教えてください」――こっちが教えて欲しいくらいです。「何をテーマにすれば良いですか?」――どうぞ先生に聞いてください。「WordやExcelの使い方を教えてください」―― ……。こういった質問をするためにみんな図書館にやってきます。

このような学生の質問に接するにつけ、学生の求める 図書館のイメージは、従来の資料を探す場としての図書 館から、より包括的な「学びの場としての図書館」へと、 変わってきているのではないかと思っています。

Learning Center & Library

わたしは二年前に5ヶ月カナダに行かせていただきました。これは特に北米の図書館の動向なのですが、向こうはいわゆる大学入試がありませんので、入学時に学力の差があるというのが前提です。勉強のできない子がいて、ばらばらなのが普通という前提ですね。そのギャップを埋めるために Learning Center がいろいろ活動をしています。

そのような北米の大学で、現在なにが起きているかというと、Learning Center と図書館がくっつくという動きが出てきていました。新しい建物を建てるときに同じ建物の中に入れたり、Web上でゆるやかな連携をしたりということをしていました。

日本でも鶴見大学が似たことを行っていますので ちょっとご紹介します。鶴見大学の文学部と史学部の 大学院では、それぞれ学部生に学習のアドバイスする チューターを設け、それを図書館の組織におくことをし ています。あるテーマに関する図書の紹介、卒論の進め 方、卒論で取り上げた作家についての全般的な相談、な ど、先生に指導してもらう一歩手前の段階で、一回卒論を書いて研究職を目指している大学院生に相談すると言うことをしています。大学院生にとっては、教える経験をすることができるというコンセプトで作られているようです。

*参考: http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/service/adviser/adviser.htm (2007.6.20 accessed)

フツーの子がフツーに勉強する時代?

- ・情報検索にも「適切な問いを立てる」ことが重要だが、 問いの立て方を知らない子もいる
- ・テーマを選択する際、文献(図書、雑誌)が存在 するかの事前調査が大切
- ・資料検索の基本は「自分は何を探したいか?」を 明確にすること
- ・伝統的な読みや書き(表現)の技術が役立つ

わたしの主観ですが、フツーの子がフツーに勉強する時代になってきたのかなと思います。特にすごい問題意識があって大学に来ているわけでもない、特にやりたいことがあるわけでもない、でも大学に来て何かを学びたい。

そういった子に対してはやる気があるとかないとかと は違う次元でサポートが必要なのではないかなというふ うに思っています。特に情報検索においては、適切な 問いを立てるという一番難しいことがたいへん重要なの で、当然これを練習させるために先生方は身近な話題を 振っているのですが、振りっぱなしですと、学生は本 当にわからなくて行き詰ってしまっているという部分を シェアしていただきたいなと思っています。

また、テーマを選択する際に、文献が存在するテーマ を選びなさいという当たり前の部分を言っていただく必 要があるかなと思っております。

情報検索のテクニックは、「自分は何を探したいか」というのを明確に文章にするということです。したがって伝統的な情報の読み方とかテキストの読み方、それを表現する書き方という技術が意外にプレゼンテーションとかの基本的な技能として、この部分が一番重要なのではないかなと思います。

メディアセンターサービス活用術

――ステップアップ編 文献管理ソフト RefWorks 利用法――

上木玲奈 (株式会社 RefWorks)

島田貴史

(慶應義塾大学 日吉キャンパスメディアセンター)

■はじめに

島田 メディアセンターの島田です。よろしくお願いいたします。前半の私の話は、文献管理をするには素材を集めないことにはできませんので、そのための時間というふうにお考えください。ですので、あくまでも次に行う RefWorks で使うデータを集めるための時間というふうに思っていただきたいと思います。メインの部分では、上木さんに RefWorks とはなにかという話から実際の使い方までのご説明していただきます。

■文献情報を収集する

2種類のデータベース

島田 現在データベースというのは種類がとてもたくさんあるのですが、先生方が文献を探すときに使うデータベースというのは実は2種類に大別することができます。一つはどんな論文や資料があるのかを探すもの。もう一つが、図書館であったりインターネット上であったり電子ジャーナルであったりという、その資料がどこに存在するのかを探すもの、以上の2種類です。つまり、存在を調べるものと所在を調べるものです。この区別は、今Googleでは一個でできるので、学生さんもごちゃごちゃになってしまうのです。ところが図書館の世界はこの二つ、2ステップと我々はよく言うのですが、二つの種類に道具がわかれていますので、迷子になったときに、いま自分がどっちを使っているかというのを意識していただけるとわりと繋がりがよくなると思います。

電子ジャーナル

では、まず最近、先生方の研究で一番よく使われる電子ジャーナルというものを説明いたします。これはデジタル化された雑誌なのですが、いま図書館員が10名近くおりますが、正直に申しまして、全部把握している人間はかなり少ないです。電子ジャーナルが出てきて10年ぐらいの歴史があるのですが、いろいろなタイプやいろいろな流通の経路がありますので、ちょっとここで簡単にまとめさせていただいて、概念をご紹介しようと思っています。

大別しますとまず、先生方もよくお使いになる JSTOR (ジェイストア) のようなアーカイブ型の電子ジャーナルというのが一つです。これはどういうものかというと、一番最初の創刊号からある程度最近までアーカイブして提供しているデータベースです。この特徴は、ムービングウォールというのですが、最近 5 年間とか 3 年間が使えないということで、使える部分、新しい部分が移動するという仕組みになっているのが特徴です。

もう一つ、これは造語ですが、百貨店型電子ジャーナルという、いろいろな出版社から電子ジャーナルの雑誌のコンテンツを買ってきて提供するようなタイプのものがございます。最初はこれが一番ポピュラーでした。EBSCOとか、Galeとか、LION、CNKI、こういったものが百貨店型、いろいろなものを取り揃えている電子ジャーナルです。これについておもしろいのが、出版社が紙の売り上げが落ちることを恐れて最新号は書誌だけで、中身を見せないというものがあるのです。このタイ

プのものについては、新しいところが一部見られない可 能性があります。

そして最近メインになってきたのが、問屋型。これ は出版社や学会が直接電子ジャーナルを出版している タイプのもので、今はこれがメジャーになりつつあり ます。一番有名なものですと、Science Direct という自 然科学とか医学系のだいたい 40 パーセント以上のシェ アを持っているものがありますし、みなさんご存知の Nature、こういった学会が出している電子ジャーナルの システムがあります。電子ジャーナルは、だいたい一 番新しい号まで確実に見ることができます。Nature は 97年から見られるので一概には言えませんが、だいた いの目安として 2000 年前後のサービスインしたよりも 前の部分については遡及入力を始めています。この部 分が別売りになっていまして、先生方が研究室でジャー ナルに契約していただくときは、カレント(現在)の部 分はご利用いただけるのですが、過去分については買っ てくださいということを言われている状況です。

最後がフリー型といって、インターネットに無料で 提供されているものですので自由にお使いくださいと いうものなのですが、この場合もやはり出版社のほう で最新号はだいたい見られないようにしていますので、 古いものから、ある程度のものまでが見られるという特 徴があります。

このように、電子ジャーナルと一言にいっても、雑誌によってまちまちですが、ポイントとしては2000年前後から最近のものが電子化されて使えるものが多く、一番新しいものまで見られるのは、出版社や学会が直接提供しているものです。そのほかのものには若干利用できない期間があります。その他の特徴としては最近、バックファイルの電子化をしているということです。こんなことをユーザーとして研究者の方は覚えておいていただくと良いかと思われます。

蔵書目録

次に蔵書目録ですね。日吉のメディアセンターのトップページがございまして、左側にあります「蔵書検索 (OPAC)」をクリックしてください。または「データベース」というところを押していただきまして、ここの「蔵



書目録データベース」を押すと、ほぼ同じものが出て まいりますのでこちらでもけっこうです。資料の所在、 どこにあるか、など図書館で資料を入手するときに使う データベースなのですが、これはこの順番で使ったほう が効率的だという順番があります。

どのように見ていただくかは、まず慶應の OPAC (KOSMOS) でお調べください。次になぜか早稲田大学の OPAC (WINE) です。早稲田大学と慶應大学は実は図書館同士は仲がいいんですね。早慶戦のようにはなっていません。早稲田と協定がありまして、先生方は何の紹介状もなく直接早稲田大学の図書館を利用できますし、慶應の専任の先生の場合は早稲田の中央館で登録をすると本を借りることができます。早稲田の本を早稲田のユーザーとして借りることもできます。それから、ILL (Interlibrary Loan) といって取り寄せのサービスもお安くなっております。早稲田大学をもう一つの、六番目のキャンパスといってもいいと思います。

そしてその次が慶應と早稲田以外の国内の主要機関の 蔵書目録を調べることができる Webcat というものがご ざいます。慶應と早稲田以外の 850 ぐらいの図書館の蔵 書目録を検索できる便利な道具なのですが、実は慶應と 早稲田は図書のデータを提出しておりません。肝心の慶 應と早稲田は Webcat で検索できないので、慶應、早稲 田といってそのほかの大学という形でお使いいただけれ ばと思います。意外とここの部分はご存知ではない先生 方もいらっしゃいますので、慶應→早稲田→ Webcat と いう順番で探していただくのが効率的だと思います。

また海外ですけれども、メジャーなのは北米の大学、

英語の文献が多いということもあるのですが、北米の大学の図書館の Webcat にあたる WorldCat というもので検索されるとよろしいかと思います。これでない場合にはイタリア語とかドイツ語とかそれぞれの言語になりますので、そういったそれぞれの国の OPAC を調べるのに便利な道具があります。「実践女子大学 世界の OPAC」と検索をしますと実践女子大学の図書・雑誌検索ページに各国のリンク集が用意されていますので、そちらでお使いになるとよろしいかと思います。

最後にちょっと毛色が違うのが、さきほどご紹介しました電子ジャーナルです。検索するための OPAC が用意されていまして、こちらにアクセスいただきますと先ほどご紹介した慶應の電子ジャーナルに、2万5000タイトルぐらいあります。こちらもご利用ください。

記事索引

その次に記事索引ですが、どんな論文が世のなかにあるかという部分です。基本になるのは国会図書館が作っている雑誌記事索引です。ところが最近 CiNii と呼ばれるものがなかなかいいです。何がいいかというと、国会図書館の記事索引をベースにして、そこに NII (国立情報学研究所) という国の行政独立法人がありますが、そちらが持っているフルテキストがセットになって出てきますので日本語の電子資料が読める数少ないデータベースとなっております。CiNii は学生も好きですし、先生方にも便利だと思います。

海外のものについては先生方がお詳しいかと思いますので説明することもないかもしれませんが、意外と盲点になっているものをご紹介します。そのひとつがWeb of Scienceと呼ばれるとても有名なデータベースです。特に自然科学系でよく使われますが、こちらは自然科学系の4500タイトルぐらいのコアジャンルを絞ったもので、その主要な雑誌の記事索引としても使えるのですが、おもしろいのは引用関係で調べることができるということです。例えば物理の下村裕先生が書いた論文を引用している論文はないかというふうに引用関係で調べることができます。よく大学で論文の引用ランキングが出ますよね。それを出している会社が作っているデータベースですから、引用関係で調べるにはと

ても便利なデータベースです。

もうひとつは CSA(現 ProQuest)という会社が提供している Illumine というデータベースです。英語の書誌データベースは分野ごとでばらばらです。それが何とかならないのかというときに複数のベータベースをひとまとめにして横断で検索できるデータベースシステムが用意されています。Illumine もそのひとつです。例えば教育学と社会学、哲学といったいくつかのファイルがいっしょに検索できるようになっていますので、学際的なときは便利かなと思います。

先生方は個別の専門分野のデータベースはお強いと 思われるのですが、意外と盲点となっている学際に強い データベースですとか、引用関係に強いデータベースと いうのもあるということを覚えておいていただければ と思います。

新聞記事

そして新聞です。日本語のものは各新聞社ごとになっ ていて面倒ですね。朝日はここ、日経を読みたい人は ここというふうになっています。日本の新聞は各新聞社 ごとですが、英語のほうは LexisNexis Academic と いうところで主要な新聞を全部カバーしております。で すからニューヨークタイムズでもデイリーでもウォー ルストリートジャーナルでもすべてこれ一つで検索で きますので便利です。更に忘れてはいけないのは、アー カイブがありまして、例えばニューヨークタイムスとか ウォールストリートジャーナルは創刊号から読むこと ができます。LexisNexis Academic で横断もできますし、 いくつかの新聞に関しましては初号からも読むことが できます。そして CNKI は 2000 年以降の大陸で出てい る中国の約300の新聞が収録されていますので、こち らもさきほどの Lexis と同じように一個で全部引けるよ うになっています。日本語はデータベースが遅れていま すので、中国語や英語は比較的使いやすくなっていると お考えください。

その外のデータベース

最後にその他ということで、まず EEBO というのは 英語の先生方に訴えたいのですが、Early English Books



Online というもので、15世紀から17世紀に刊行された 英文資料もしくはイギリスで刊行された英語以外の資料 の一部がフルテキストで収録されているものですので、 例えばシェイクスピアのある作品の版違いのようなもの をテキスト単位で検索することができるということが可 能になっているデータベースです。

二番目が British National Corpus ですが、これは 文字通りイギリス英語を検索するためのものとしては世 界最大のコーパスのひとつといわれているものです。こ ちらも端末で検索できるようになっていますので、どう ぞお使いいただければと思います。

最後は音楽です。音楽のものとしては NAXOS Music Library。これはクラシックの音源がストリーミングで配信されるものでそうとう人気は高いです。お家からも利用できますので音楽を検索する方はお使いいただければと思います。

電子資料の将来

今後こういった電子資料がどうなっていくかを考えると、先生方などから、電子資料のバックファイルを何とかして買って欲しいというリクエストが挙がっております。ただしバックファイルは買取がメインなので、

かなりまとまったお金を払わなくてはいけないということで、図書館でも、その資金をご相談させていただければと思っております。

もう一つは eBook(電子図書)ですね。さきほど電 子ジャーナルのお話をしたのですが、いま英語の世界で は新刊書は主要な出版社では全部 eBook で出ておりま す。ですから、オックスフォードやケンブリッジ、シュ プリンガーもそうですが、もう新刊書で読めないものが ないような感じになっております。その点、日本語は 絶版書のサービスをやっと始めるという段階でかなり 遅れをとっており、個人向けに漫画などはありますが、 大学機関には売ってくれないというよくわけのわから ないことになっています。ここを何とかしないといけな いと思っている次第です。特に先生方の研究で、図書館 に来なくて、お家からでも研究ができるためには、やは り資金をどう集めるかという問題があります。eBook が あれば絶対に学生も本を読むようになりますので電子 ジャーナルは先生の研究向け、eBook はおそらく学生の 学習向けとしていい資料ですのでこちらのほうも今後 いろいろとご相談させていただければと思います。

データベースへのアクセス

最後にさきほどご紹介したアーカイブ類へのアクセス の仕方なのですが、入り方としましては日吉メディアセ ンタートップページからデータベースというところをク リックしてください。また、電子ジャーナルの OPAC は その一個下になりますので、そちらを押していただいて タイトル検索を押していただきますと、さきほどご紹介 した、慶應が契約している電子ジャーナルを検索できま す。「利用場所指定」のプルダウンメニューで「日吉」 を指定すれば、日吉キャンパスで利用できる電子ジャー ナルを検索できます。三田キャンパスで使うという方は これを「三田」にしてください。慶應のどのキャンパス でもいいから探したい場合には「いずれかのキャンパス」 を選んでいただくことで慶應内でどんな電子ジャーナル が利用できるかを検索することができます。さきほど電 子ジャーナルは大筋で 2000 年からのものが多いという 話をしましたけれども、この OPAC では何年から利用で きるという具体的な情報が出てまいります。

駆け足で恐縮ですが、あとは記事索引系データベース で雑誌論文などの素材をたくさん集めていただいたうえ で上木さんの話につなげたいと思います。

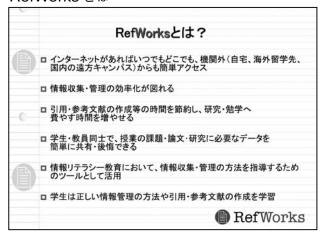






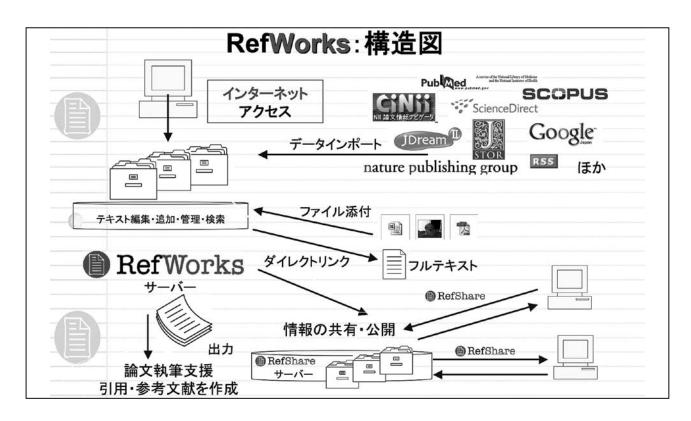
■ RefWorks を活用する

RefWorks とは



上木 よろしくお願いいたします。それでは実際にいろいると作業にかかる前に、RefWorks について簡単にご説明します。

RefWorks は文献管理ツールと呼ばれています。なぜ こういうものが登場したかといいますと、さまざまなイ



ンターネットでアクセス可能なデータベースの出現によるものです。おそらく最近まではインデックスカードのようなものや、もしかして EndNote というソフトウェアをお持ちの方もいらっしゃるかと思いますが、そういった個々のもので文献を管理していたと思います。特に一つのツールで管理していたものはありませんでした。研究者、教員、学生が研究成果や文献などいろいろな情報を管理して、それを論文に役立てる、または情報の共有を支援するための Web のサービスが RefWorks です。主に先生方の研究に役立つ便利なツールなのですが、学生との情報共有ですとか、学生の情報リテラシー促進のためのツールとしても活用できます。きちんと論文を書く、参考文献を作るといった教育にも使えるツールです。

RefWorks の強みは二つあります。一つは、RefWorks は最近よく使われます ASP 型で、従来はパソコンに CD-ROM でアプリケーションソフトをインストールしたり、バージョンアップをしたりとインストールする必要 があったのですが、RefWorks はそういう必要が一切ありません。パソコンにインストールするのではなく、基本的には我々のサーバーのほうにつながって利用するという仕組みになっています。パソコンに依存していませんので、どのパソコンからでもアクセスしてみなさまの

アカウントにつなぐことができます。そして 2000 年以降に出現したさまざまなデータベースなどから皆様が必要な研究情報だけを取ってきて、RefWorks に詰め込んで、編集したり、管理、検索ができます。

また、ファイルなどを添付する機能もあります。ですから、文献情報にフルテキストのPDFを添付しておけば、例えば海外に行かれたときに、あの論文が見たい、と思ったらご自身のパソコンがなくてもインターネットにつないでいただければ探すことができます。フルテキストにも簡単にアクセスすることができる、それがRefWorksの強みです。

もう一つの強みが、RefWorks とは文献を詰め込んだ大きなタンスのようなものだということです。この引き出しにはこの分野の文献、この引き出しにはこの分野の文献という形で自由に設定して入れて、ため込んだものを皆様の発表される論文に引用したり活用することができます。ため込んだ文献情報を、ワンクリック、2秒で参考文献リストに作り替えることができます。これまで、おそらく何時間もかけて、これはイタリックで書くんだっけと悩みながらやっていらっしゃった、先生方が本当はしなくてもいいような作業を RefWorks がやってくれます。

Microsoft Word のアドインツールとしてインストールする必要がありますが、Write-N-Cite という、まさに引用しながら書くというツールも用意されています。これを使って、参考文献を作るだけでなく、実際に Wordで引用をしながら論文を書いていき、最終的に MLA とか APA といった投稿する雑誌のフォーマットに合わせることができます。

では実際にこのマジックのようなツールを見ていきたいと思います。

RefWorks のアカウント作成

上木 それでは、まず RefWorks のアカウントをみなさまに作っていただきます。RefWorks は基本的にはインターネットさえあればどこからでも、ご自宅からでも海外からでも使えるという Web 上のソフトですので、メールアカウントを作るような形で簡単にアカウントを作ることができます。

まずは日吉メディアセンターのトップページのデータベースのページに入ってください。このページの一番下の「文献情報管理ツール」をクリックしてください。すると RefWorks のページが出てきます。このページの一番上の「login」をクリックします。これは IP 認証で、ここが機関内であれば自動的に RefWorks の慶應大学専用画面にアクセスします。

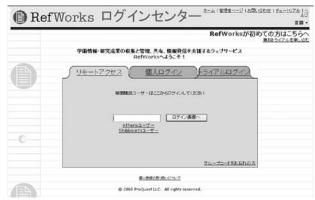


では、初めての方は「個人アカウントの作成」というボタンをクリックしてください。登録フォームが出て きますので、任意のお名前とお好きなログイン名とパス ワードを入力ください。このログイン名は半角英文で4 文字以上でお願いいたします。お名前、ログイン名、パスワード、メールアドレスと登録すると簡単にアカウントが作れます。

あとは「登録」をクリックすると、無事登録となり、 「おめでとうございます」と表示されます。これは直訳 なので変な感じがするかもしれませんが、こういった形 でアカウントを作ることができます。

島田 新規アカウントはキャンパス内で作らなくては いけないのですか。

上木 はい。初回は学内でアカウントを作ってください。一度アカウントを作成しましたら、ご自宅からでもアクセスできます。ご自宅でアクセスしたい場合はhttp://www.refworks.comからログインしていただくと、どこの大学に所属しているのかというリモートアクセスの認証画面になります。この画面ではグループコードを入力する必要があります。グループコードは初回にアカウントを作成した際に自動的にメールで告知されます。



島田 パスワードを忘れたときにも、このアドレスに連絡がくるんですよね。

上木 はい。登録したと同時に皆さんが入力した情報が メールアドレスに自動的に送信されますので、何かあっ たときはそちらで確認いただけます。

ちなみにアカウントは無制限に作れます。これはこの 授業用、これは学生さんとの共有用という形でログイン 名さえ変えれば、アカウントはいくつでもお持ちいただくことができます。

RefWorks に情報を取り込む

上木 今はまだ RefWorks のアカウントを作ったばかりの状態で、まだ何も入っていない、空っぽの箱になっています。ですから、探した情報をどんどん入れていただく必要があります。RefWorks は取り込み方法がデータベースによって若干異なり、直接画面から取り込めるdirect export(ダイレクトエクスポート)というものと、一度テキストファイルとして保存してそれを取り込む方法とがあります。本日は慶應の OPAC、CSA、Web of Science といった代表的なものからの取り込みをご紹介したいと思います。

① OPAC から取り込む

上木 それでは初めに OPAC からの検索をお見せした いと思います。日吉メディアセンタートップページから OPAC 検索のページにお入りください。

島田 それではキーワードは何でもかまいませんので、 検索してみてください。福澤先生の『学問のすすめ』で もけっこうですし、先生方の書誌でもけっこうですので 検索していただいて、欲しい文献を検索したところで ちょっとウィンドウをとめておいてください。

上木 検索しますと一覧表が出てきますので、そこから何か一つタイトルをクリックしていただきますと検



索結果詳細画面になります。そこにあります RefWorks のアイコンをクリックしてください。すると、「一件取り込まれました」と表示されますので、RefWorks の「最近インポートしたレコードフォルダ」をクリックしてください。いま取り込んだ一件が表示されます。このようにして、ご自身のアカウントにきちんと文献情報が取り込まれたことを確認できます。

いまは、簡単な表題と著者名と、どこから来たかということしか表示されていませんが、「表示方法」というところに標準ビュー、引用ビュー、詳細ビューと並んでいます中から詳細ビューに変えていただきますと、その他の書誌情報が表示されます。このように RefWorkを使えば、手で書いたり、紙に印刷していたものが、そのような手間をかけずに必要な文献情報を取り込んでいくことができます。





② CSA Illumine から取り込む

上木 では他のデータベースも見ていきたいと思います。日吉メディアセンターのデータベース一覧の画面に

戻ってください。RefWorksのほうはそのままにしてください。

上から三番目の「雑誌論文・記事論文の DB」をクリックしてください。では CSA の Illumine と日本語の CiNii をお見せしたいと思います。最初に CSA をお見せします。「海外・総合」と書いてある欄の二段目です。

島田 CSA は複数の書誌データベースを収録していますので、複数の異なる分野、教育学やイギリスの人文科学、建築など、複数の書誌データベースを一気に検索できます。

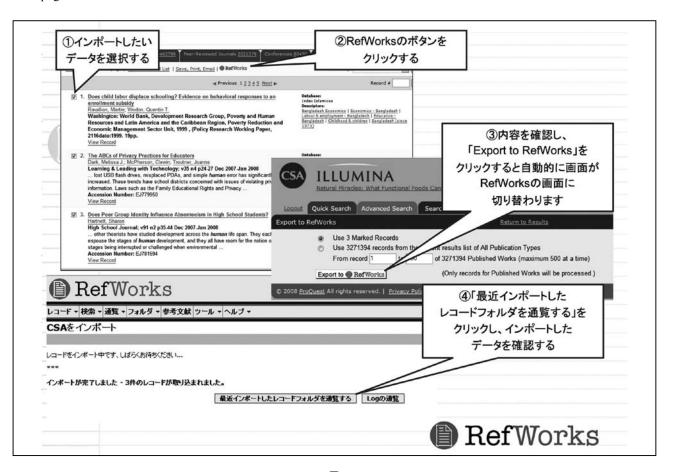
上木 ここで、英語で何でもよろしいので検索をしてみましょう。キーワードを入れてサーチすると検索結果が表示されます。

一個一個のチェックボックスをクリックしてもいいのですが、仮にこの1ページ目に出てきた10件の文献をすべて一気に取り込みたいという場合は、このmark all a page をクリックすると、どの文献情報を取り込み

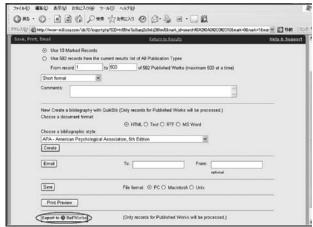
たいか選択する画面が出てきます。今回は一気に取り込みたいので mark all on page をクリックしてください。

マークをすべてチェックした後は、画面の RefWorks のロゴまたはテキストをクリックしてください。画面が 切り替わり左の下に Export to RefWorks が表示されます。 通常は RefWorks の赤と黒のロゴがありますし、ないデータベースに関しては、英語で RefWorks と表示されます。 この Export to RefWorks をクリックすると、「十件のレコードを取り込みました」というメッセージが現れます。作業を見るためには「最近インポートしたレコード」をクリックすると、確認できます。

ただ今ご紹介したように CSA Illumine は、Illumine のページから直接 RefWorks に情報をインポートできます。これを、direct export 対応サービスと申します。 CSA、ELSCO、IEEE とか first serch とか最近では Google Scholar も同じ形で direct export ができます。







③ CiNii から取り込む

次は CiNii から情報を取り込んでみましょう。これは、学生さんからの要望が非常に高いデータベースです。 RefWorks の画面はそのままにしていただきまして、さきほどのデータベースの一覧表に戻って CiNii に移動してください。こちらの検索はほぼ OPAC のカタログ検索と同じ形で、一件一件を取り込んでいくということになります。

「編集」という画面が出てきます。これは何かと言いますと、実は日本語のデータベースというのは、英語や海外のデータベースに比べてかなり不完全なものがあるということがわかりました。そのまま詰め込んでしまうと、どうしても抜けがあったり、標題名が違うなどという問題がありましたので、最終的に人間の目で確認してもらうために、ワンクッションおいた確認画面を用意することになりました。

「編集」画面でいったん確認していただいて、おおよ

そ問題がないと思われたら、一番上の真ん中の「保存する」というところを押すと、「このデータは保存されました」と表示が出て保存されます。



RefWorks の管理

上木 データベースからの取り込みはこれぐらいにして、次に RefWorks の管理をご紹介していきたいと思います。

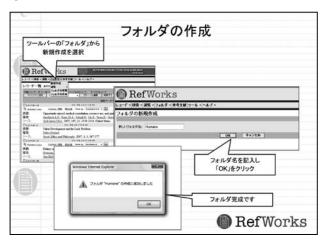
今いろいろと取り込みましたが、画面上には最終的に 一個しか残っておらず、他のものはどこへいったんだと いうことになりますよね。

島田 これは直前のアクションで取り込んだものが残るということなんですよね。

上木 はい。実は他のものは「フォルダにないレコード」というところに、一時的に、最近使ったもの、または全く使っていないものというふうに分けられています。けれどもこれでは数千件と入れていくうちにわからなくなってしまいます。それを管理するためにフォルダを作っていくという作業が必要になってきます。

メールも皆さん滝のように入ってくると思いますが、 最終的にわかりやすいように人名とか分野とかでフォ ルダを作ってそのなかにメールを入れられると思いま すが、それと同じような形で RefWorks も文献情報を次々 にため込むだけでなく、フォルダを使って管理すること ができます。

① フォルダの作成



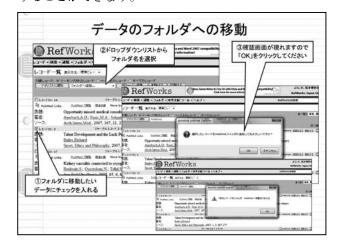
それではフォルダを作っていきたいと思います。 RefWorksのツールバーの4番目の「フォルダ」のメニューから「新規作成」を選んで、何かお好きな名前でフォルダを作ってください。確認をすると、新しく作ったフォルダ名は赤字で表示されています。フォルダは無制限に作れますので、いくらでもどんどん作っていくことができます。また「フォルダの管理」のところに行っていただきますと、自分のデータベースがどうなっているのかというのを見ることができます。

さて、いま画面上では最近インポートしたレコードが並んでいます。これをただ今作ったフォルダに移してみましょう。まずフォルダに移したいレコードを選びます。「対象レコード」として、「マークされたレコード」、「ページ上のレコード」、「すべてのレコード」と並んでいますので、例えば「マークされたレコード」を押します。移したいレコードのチェックボックスをクリックし、その後「フォルダに追加」というプルダウンメニューから、移行先のフォルダを選択します。「OK」をクリックしますとレコードがフォルダに移されます。

確認するには、「フォルダ」→「フォルダの管理」に 戻ります。さきほどは空だったフォルダにレコードが表示されています。あるいは「通覧」→「フォルダ」から、 皆様の入力したフォルダを選んでも確認できます。情報 が入っているフォルダ名は、レコード右側のペンのマークの隣にフォルダマークがあり、そこに入っているフォルダの名前が表示されています。

このような形で文献を探してきては RefWorks へどん

どんフォルダを作っていって管理することができます。 ヘビーユーザーの方であれば何万件とレコードを持っ ている方もいらっしゃいますし、フォルダも 50 個ぐら いあるでしょう。フォルダ名を何年の何月としておく と、何年の何月に書いた論文ということがわかると思 いますので、何年後かにちょっとそこを見てみますと、 こういった文献を論文に使ったんだなという形で管理 することができます。



② レコードの新規作成

先生方の中には、古い電子化されていない情報を入れ たいという方がいらっしゃるかと思います。その場合 は手入力になりますが、ツールバーの左端の「レコード」 のメニューから「新規作成」をクリックすると手入力で 自由に書けるフィールドが作られます。少し面倒だと思 いますが、こういった形で古い書誌情報、電子化されて いないものもここに入れておけば何回も使うことがで きます。

また、もしエンドノートという従来あったソフトウェ アをお使いでしたら、「End Note のインポート」から簡 単にインポートすることができます。

③ 検索

いろいろとため込んでいるうちに、おそらくフォルダ 別である程度は捜せるけれども、だんだんどこにどの文 献が入っているかわからない場合が出てくると思いま す。その場合は文献を検索することができます。二つ方 法がありまして、一つは簡単な検索、もう一つが詳細検 索です。 簡単なほうは画面の右上に「RefWorks を検索」とあり、Google ライクなボックスと呼んでいるのですが、RefWorks を簡単に検索するボタンがあります。これに何か簡単な言葉を入れて「GO」をクリックすれば、フィールドを特定せずに検索し、著者名であっても表題であっても何かキーワードであっても、何でもいいからヒットします。検出されたものが、黄色いハイライトとして表示される仕組みです。これが簡単な検索の方法です。

もう一つ、すでに何千件と文献を入れていて、さあ 論文を書こうというときに、あれはどこにあったんだろ うという、もう少し詳細な検索をしたい場合には詳細 検索があります。こちらはフィールドを特定して検索 をすることができます。例えば著者名やジャーナル名、 出版年などがわかっている場合は著者名や出版年とい う形でフィールドを特定し、なおかつフォルダを特定し ながら検索することもできます。

このように、どこでもいいから検索してくれという簡易検索と一定の条件をかけて検索させる詳細検索という形で、ご自身がため込んだデータベースのなかから、検索をすることが可能です。ただし、検索するのはあくまでご自身でインポートしたレコードのみです。慶應のOPACへ探しにいくわけではありません。

④ 通覧

次に通覧です。ため込んだ文献情報を見ていくことができます。もちろん、すべてのレコードを見ることも可能です。また重複レコードを通覧することもできます。よく、一回探して取り込んだものを再度取り込んでしまうということがあります。同じ雑誌を読んだり、同じフルテキストを注文してしまわないように、「通覧」の「重複レコード」に行きますと、主に著者名、表題、出版年等をもとにしながら比較して重複レコードを検索してくれます。これで必要ではないものを削除するということができます。削除したいものを選んで、削除するというボタンを押せば、簡単に削除することができます。

RefWorks は、データを取り込むときに基本的にはひとつのフォルダに取り込むのですが、同じ文献をこの雑誌にも引用したけれども、これにも引用したい、または学生さんともシェアしたいというときに、同じ文献を複

数のフォルダに入れることもあると思います。ただ今ご 紹介した方法はその文献をすべてのフォルダから削除 してしまうということになります。

特定のフォルダのなかからだけ削除したい場合は「フォルダ」→「フォルダの管理」からフォルダを開いて情報を選択し、「フォルダから削除する」をクリックしてください。

⑤ カスタマイズ

「ツール」→「カスタマイズ化」とクリックすると、カスタマイズという便利なツールが用意されています。これはみなさんが使いやすいように画面を設定するページです。基本的にはみなさんが一番使いやすいように初期設定がされているのですが、おそらく何回か使っているうちに、更にもう少しカスタマイズしたいという方がいると思います。その場合はこちらで設定することができます。例えば1ページあたりどれだけのレコードを表示したいかとか、言語設定などをカスタマイズすることができます。

これは使っていくうちに、必要となると思いますので、ツールの一番下にそういったものがあるということだけ覚えておいていただければと思います。

⑥ 参考文献の作成

では、次は参考文献を作るというところに入りたいと思います。メニューの右から三番目ですね、「参考文献」というところをクリックしてください。そうしますと、ページが表示されます。ここで何ができるかというと、出力したい論文、雑誌のフォーマットを、または出力スタイルを選んで、それにフォーマット化したい文献を入れます。

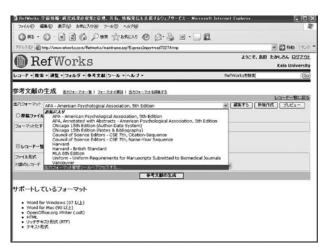
おそらく APA や MLA、みなさま投稿される雑誌はさまざまかとは思います。仮に APA で、取り込んだすべてのレコードを使って参考文献を作ってみましょう。「参考文献」に戻っていただき、リストから選んでいただいてもいいのですが、リストに使いたいフォーマットがない場合は、「ツール」→「出力フォーマット管理ツール」、英語でいうと output format manager というのですが、この出力フォーマット管理ツールにアクセスしていただき

ますと、およそ 800 種類ほどの出力フォーマットを使う ことができます。

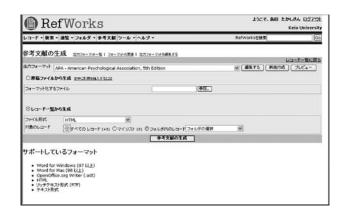
RefWorksでは随時いろいろな論文の出力フォーマットを調べては載せるということをしています。日本語のものもあります。自分が参考文献を作るときに使うフォーマットを選んで、「お気に入りへ追加」としますと、どんどん「お気に入り」のほうへ追加され、みなさんがよくお使いになるものがまとめて表示されます。

出力フォーマット管理ツールはご自身のためにカス タマイズすることもできます。

それでは「参考文献」に戻って、みなさんも実際に使ってみてください。先に出力フォーマットを選んでから、参考文献リストに載せたい文献情報を選んでください。おそらく従来はこの参考文献リスト作成の作業だけでも半日ぐらいかかっていたかと思いますが、RefWorksを使えば簡単に作ることができます。使い慣れるまで少々お時間がかかってしまうかもしれませんが、慣れればみなさんの研究や論文作成に役立つことと思います。



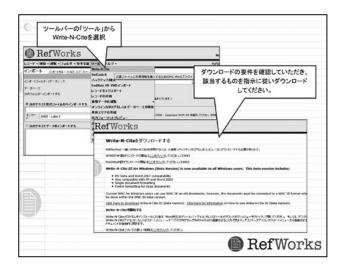




Write-N-Cite

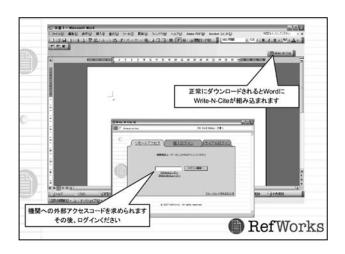
最後に Word で論文を書きながら、そこに引用をして 参考文献を作る、Write-N-Cite というものをご紹介しま す。ただし、この Write-N-Cite という機能は、Word と Internet Explorer との組み合わせでしか使えません。

まず Word と Write-N-Cite というものを連携するツールをパソコン上にインストールしていただく必要があります。



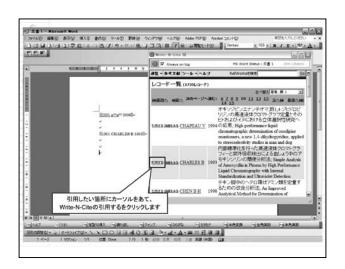
① Write-N-Cite のインストール

これを組み込むことにより、Write-N-Cite で論文に引用することができるようになります。ではダウンロードの部分から見ていきたいと思います。RefWorksのツールメニューのWrite-N-Citeをクリックして下さい。「Write-N-Citeをダウンロードする」というページが開きます。「保存する」か「実行する」かと聞かれますの



で、「保存する」を選択してクリックすると、「インストールしますか」と表示されますので、ダウンロードしたものをクリックしてインストールしてください。3回ぐらい OK と押せばいい、簡単な作業です。Write-N-Cite というアイコンが表示されれば無事インストールされたということになります。

では、もうウィンドウは閉じていただいてけっこうです。Write-N-Cite は RefWorks の商品なのですが、Word と連携していますので、Word を立ち上げてください。RefWorks を使いながらでも作業できます。Word のなかに Write-N-Cite というアイコンが、環境によって場所が違うかもしれませんが、出てくると思います。そのアイコンをクリックしていただきますと、ウィンドウが開きます。そうしましたら、さきほど作ったアカウントのログイン名とパスワードを入力してください。Wordを立ち上げても Write-N-Cite のアイコンが出てこない場



合は、インストールがうまくいっていないと考えられます。もしくは、ツールバーで RefWorks というのを消してしまっていることも考えられますので、「表示」の「ツールバー」を確認してください。

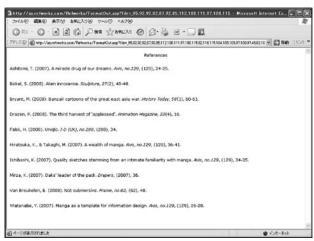
② Write-N-Cite を使う

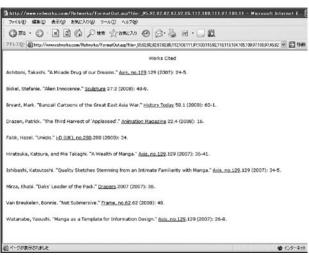
それではみなさんログインされたでしょうか。このWrite-N-Cite は基本的にWordの文章中に引用するためのツールですので、さきほどとは表示が若干違っており、参考文献を作るだけのメニューになっています。画面中にこれまで取り込んだ文献が並んでいて、最近インポートされたもの、またはフォルダという形でご自身が引用したい文献情報を探すことができます。

仮に Word を使って論文を書かれていたとします。ここで文献を引用したいというところで、Write-N-Cite に戻って引用したい文献を探してください。仮に一番上の文献を引用したい場合、「引用する」というのをクリックしますと文中に引用されます。ちょっと読みにくいようなコードが入っていますが、気にしないでください。最後には自動的にフォーマット化されます。

自分が引用したい文献を探して引用するというプロセスを確認しましょう。まずは先にWordの文章を保存します。これが仮に20ページぐらいの論文で、30件ぐらい引用をして、ここまでということであれば、今度はこちらのWrite-N-Citeの「参考文献」というところをクリックしてください。「お気に入り」に設定したプルダウンから、フォーマットしたい出力スタイルを選んでいただきます。何か参考文献を選んでクリックしてください。そうすると引用され、本文の最後に参考文献が作られます。これが仮に内容が不十分なデータベースだったりすると、もとのデータベースの情報を編集する必要がありますが、おそらくみなさんがこれまで何時間もかけていた作業を大幅に省力化できることと思います。

ただ今の作業で二つの文書ファイルができています。 一つは編集作業をしたもの、オリジナルの原稿です。これとは別にある一つの出力フォーマットでフォーマット化された原稿ファイルが新たにできます。これには通常はファイナルという形で名前がつきます。この後、おそらく編集をしなおす可能性が高いという場合は両 方のファイルをキープしていただきまして、オリジナルのほうを編集して再度フォーマットの変換をしてください。仮に違う雑誌に投稿する場合、ファイナルのほうは破棄して、オリジナルのファイルに戻って、Natureに投稿するのであれば、Natureの出力フォーマットを選んでいただきますと、同じオリジナルの原稿から、別の出力フォーマットに作り変えることができます。オリジナルをキープしていれば、何度でも違うフォーマットに作り変えて瞬時に出力することができます。





今 RefWorks は世界で、だいたい 900 大学で使われており、先生方・研究者はこのツールで時間の効率化を図っています。とくに科学の分野では時間が勝負ですので、面倒な作業は RefWorks にまかせて、実際の内容のほうに時間をかけられるようになりました。この Write-N-Cite はみなさんの貴重なお時間を、参考文献のような

面倒な作業に使わないためにもご活用いただければと 思います。



島田 学生さんがこのツールの使い方を覚えると、参考 文献はきちんと書けるようになってしまうんですね。

上木 慶應義塾大学は本当にユーザーレポートという のがあるので、学生の利用はかなり多く、1000 ~ 2000 人ぐらいの学生が利用しています。慶應の院生の方から も質問をいただいています。

島田 海外の大学の統計とかを見てみると、こういった 道具というのは医学部とか理工学部の方しか使わない ということも多いのですが、RefWorks に関しては人文 系の大学院生の利用が多いそうです。

この参考文献の書式がないと気づいた場合はお願い することはできますか?

上木 こういった出力フォーマットが欲しいというご 要望がありましたら、優先順位順にご用意することに なってしまうのですが、随時リストに追加していきます。ご要望が多ければ多いほど、アップして世界中のみ なさんがそれを使うことができるようになります。日本語のものでもけっこうですのでご要望があれば、ぜひお 知らせください。

■質疑応答

司会 上木さんどうもありがとうございました。非常に 便利なツールをご紹介いただきました。ぜひお使いいた だければと思います。それでは、ご質問などありました らどうぞ。

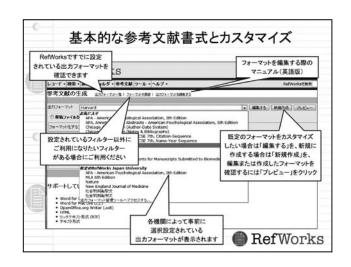
会場 参考文献のところに、著者の文字化けというか抜けがあります。

上木 100%のツールではありませんので、そういった 部分はあるかもしれません。内容、出力フォーマットに よっては若干修正の必要があるかもしれません。大元の データベースと考えてください。

島田 インポートしたあとの項目のところは編集で見越してちょっと変えてしまうこともできます。

会場 英語のものと日本語のもので、自分のカスタマイズはできるんでしょうか。例えば二重カギをつけるとか。書名はイタリックになっているけれども、自分は二重カギでやりたいとか。シカゴマニュアルを使おうとAPAを使おうとMLAを使おうと、日本語の本とか雑誌名は二重カギで使いたいと。イタリックにされてもたまらないと思います。

上木 そのカスタマイズは可能です。気づいたところをご自身のために修正したいという場合は、「参考文献」に「編集する」と「新規作成」とがあります。既存の項目をもとに、自分用にカスタマイズしたい場合は「編集」、またはまったく新しいフォーマットを自身で作りたいという場合は「新規作成」という形で作れます。新規作成はかなり使い込まれている方用で、ゼロからスタートするのでかなり大変なのですが、ある程度似たような出力フォーマットを探してそれにプラスアルファするということも可能です。仮にAPAスタイルをもとに編集したいといった場合は、「編集する」をクリックすると「出力フォーマットエディター」というものが表



示されます。詳細はヘルプ画面で見ていただきますが、 基本的には参考文献を修正したいのか、文中の情報なの かという形で選んでいただき、どのように修正したいの か、例えば最初の著者をイタリックにするとか、著者名 をどうするか、削除したり、下に下げたりといったこと が指定できますので、試していただきたいと思います。 これに名前をつけて保存するときには上書きされない ようになっていますので、いろいろと試していただき、 ご自身にぴったりくるものがあれば、それを保存し何回 も使うことができます。

会場 これは島田さんへの質問かもしれないのですが、 学生がかなり利用していると仰られていましたが、KITIE などで Ref Works の説明をしていますか?

島田 KITIEにはありません。今回は上木さんに生でお話していただいたのですが、早稲田大学の図書館のホームページには解説の動画ファイルがアップロードされていて、上木さんがご出演されていますし、かつ英語でも説明されています。学生は人がやるより動画が動いたほうが理解するという法則がありますので、上木さんがご出演されている動画のほうがいいかもしれません。慶應も作れという声もあるのですが実現されていません。

上木 一日がかりでスタジオのなかで撮影しました。学生さんに教員の方がすすめていらっしゃるというお話をしました。

会場 全部見るのにどれぐらいかかりますか。

島田 だいたい 20 分ぐらいですね。データインポートについての説明がちょっと長いのでそこをのぞけば 20 分以内でしょう。

上木 ただし、これは若干早稲田さん用になっておりますが、学生さんには非常にわかりやすいと言っていただいております。

それでは今日はどうもありがとうございました。

慶應義塾大学教養研究センター 教員サポート1

メディアセンター・サービス活用術

2008 年 3 月 31 日発行 編集・発行 慶應義塾大学教養研究センター 代表者 横山千晶

> 〒 223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1 TEL 045-563-1111(代表) Email lib-arts@adst.keio.ac.jp http://www.hc.keio.ac.jp/lib-arts/

©2008 Keio Research Center for the Liberal Arts 著作権者の許可なしに複製・転載を禁じます。 ISSN 1880-3628 ISBN 978-4-903248-15-8